

ニュースポーツ推進事業

取組に至る背景・事業の目的

- 全国的に女子中学生の体力の低下、運動時間の減少、働き盛り世代の運動不足が問題視されており、青木村でもその傾向がある。
- 村では高齢者の医療費が増大している一方で、子どもについても体力テストの「ソフトボール投げ」の結果が県平均の70～90%に止まり、基本動作である「投げる」という動作に未発達な様子が見られる。
- 現在行っている公民館事業に子どもから高齢者まで幅広い年代で楽しめるニュースポーツを取り入れることで、運動機会・時間の増加につながると考えられ、健康増進、医療費削減が期待できる。

事業内容

幅広い年代が楽しめる「ニュースポーツ」の用具を整備し、ニュースポーツの普及とスポーツ大会等を開催した。

- ①「上小スポーツレクリエーション祭 2018 秋の部おきむらで遊ぼう！」
主に子どもを対象として、ストライクボード・スマイルボウリングの体験コーナーを設けた。
- ②「平成30年度 ヤンレ! さわやか秋季ニュースポーツ祭」
囲碁ボール、スマイルボウリングを使って12分館対抗のスポーツ大会を開催した。
- ③「ニュースポーツ体験」
小学生とその保護者で囲碁ボールを体験。スポーツ推進委員がルール説明、審判を行い補助した。
- ④「太鼓でドンドン♪脳トレ」
60代から90代までの高齢者を対象にして、認知症予防を目的とした太鼓を使った脳トレを開催した。



【囲碁ボールの様子】

事業効果

整備した備品を7回のイベントで延べ895人が使用し、事業終了後も多くの団体から広く活用いただいております。今後のニュースポーツの普及が期待される。

子どもから高齢者まで幅広い年代で取り組めるニュースポーツを主体としたスポーツ大会や体験会を開催することで、子どもの基本の運動動作の獲得、若者・働き盛り世代の運動不足の解消、運動時間の増加、高齢者の運動機会・時間の増加に寄与することができた。

- ①ストライクボードコーナーではうまくボールを投げられない子にスポーツ推進委員が指導したところ、ボールの飛距離が伸びたり、的を狙うことができるようになった子どもが多く見られた。スマイルボウリングコーナーではボウリング場とは違う感覚であるが身近に楽しめるということもあり、大人も子どもも一緒に楽しんでいた。
- ②参加者の運動不足解消、健康増進につながる良い機会となった。また、村内の良い交流の場となった。
- ③小学生にとっては普段、体験する機会が少ないスポーツだったが保護者と一緒になって楽しんだ。親子の良い交流の場となった。
- ④月に1回の楽しみ、交流の場ともなり、生きがいくりの場にもなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 購入した備品は村内の方を中心に貸し出し、様々な場で活用していただく。
- 必要に応じてスポーツ推進委員など指導者を派遣していく。
- 学校現場と連携して必要に応じて貸し出しや指導に活用する。
- 普及に向けて公民館行事で積極的に取り入れる。(春・秋開催のニュースポーツ祭を中心に)
- 太鼓を使った脳トレ事業も継続して開催し、参加者の良い交流の場となっている。

【選定のポイント】

工夫をしながらニュースポーツの普及活動が行われ、多くの人にニュースポーツに触れる機会を提供できた。整備した備品は事業終了後も地域活動で積極的に利用されており、今後も住民への普及を積極的に行うことで、さらなる健康増進に活用されることが期待できる。

団体名 青木村
 連絡先 0268-49-2224 (教育委員会事務局)
 kyouiku@vill.aoki.nagano.jp

事業タイプ ソフト・ハード事業
 事業費 1,415,146円
 支援金額 1,104,000円

「地域トラベルサポーター」を活用した特色ある観光地づくり

取組に至る背景・事業の目的

「旅をあきらめていた」障がい者（児）・高齢要介護者などを人的サポートのしくみ「地域トラベルサポーター」の助けを借りて、観光地周遊、温泉介助入浴など安心・安全・快適に楽しみ、新しい観光顧客として迎えるために「モニターツアー」を実施、同時に「地域トラベルサポーター」の資質向上、おもてなしの心を醸成、観光施設、地域住民との交流を活性化させることで「ユニバーサルツーリズム」を諏訪圏に定着させる。又、諏訪圏の強みである医療・福祉連携を「観光」に生かし、「食の安全」「接遇」「リハビリ」などへ展開、観光客及び観光着地に「安全・安心」を周知する。「地域トラベルサポーター」の存在が、幸せな旅行や外出を実現するために一助を切に願い、旅（外出）を身近に感じてもらいたい。

事業内容

- 首都圏からのモニターツアー
 - ・「サマーナイト花火IN上諏訪温泉ツアー」
 - ・「山登りに挑戦したい」サポートツアー
 - ・「静岡県肢体不自由父母の会御一行」入浴介助
 - ・「水頭症姉弟」の入浴介助
 - ・甲府市「あおぞらの里」認知症の方々の宿泊忘年会同行支援と温泉入浴介助
 - ・「脳性まひ児童のスキー体験・一般浴入浴介助」
- 首都圏からのリハビリツアー
 - ・「上諏訪温泉リハビリ」「富士見高原散策」ツアー
- 諏訪圏の日帰りツアー
 - ・「障がい者の全介助入浴」(2回)
 - ・原村社協「ひばりの会」同行介助(2回)
 - ・「花田養護学校生徒及び保護者諏訪湖竜宮丸乗船ツアー」
 - ・玉川ケヤキフェス「介護施設入居者同行支援」
 - ・認知症対応グループホーム入居者「諏訪湖散策と竜宮丸乗船体験」
 - ・障がい児「白樺湖乗馬体験とよいさ館木落疑似体験」
 - ・原村中学校生徒の車いす(JINRIKI)体験講座
- 観光と医療福祉連携
 - ・誤嚥を防いで楽しく食べるための諏訪地域の取り組み(研修会)
 - ・「人生を心豊かに旅する方法」(講演会)
 - ・よりよい共生社会のために知っておきたい大切な話(研修会)



【上諏訪温泉での入浴の様子】

事業効果

- 「地域トラベルサポーター」によって「旅をあきらめていた」障がい者・高齢要介護者及びご家族などが、旅ができる喜びが体験できた。また、受入関係者が「バリアがあっても大丈夫」と実感でき、障がい者や高齢者と一緒に喜びを感じ楽しめた事が大きな成果になった。
- モニターツアーにより「ユニバーサルツーリズム」の認知度が高まり、首都圏や諏訪圏から多数のツアー参加が得られるようになった。また、「地域トラベルサポーター」の資質・技能向上にもつながった。
- 諏訪地域の強みである、医療と福祉の連携を背景とした事業。「障がい者を理解する」ことをテーマとし、インクルーシブ・共生社会を目指す活動などで「ユニバーサルツーリズム」の根幹をなす問題に真正面から取り込み地域社会に話題が提供できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪圏に定着してきた地域トラベルサポーターの取り組みを「ユニバーサル・サポートすわ」が担う事になり、観光受入側の心のバリアフリーを含めユニバーサルツーリズムの聖地になるように活動していきたい。

誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」地域トラベルサポーターが地域の核になれるようにユニバーサルツーリズムの強化を図っていきたい。

【選定のポイント】

諏訪地域の強みである医療・福祉の連携が観光分野に活かされ、ユニバーサルツーリズムが地域に定着することにより、観光客の増加が期待される。

団体名	諏訪地域トラベルサポート実行委員会 (諏訪市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-3558-450	事業費	1,145,640円
メール	yunisaposuwa@gmail.com	支援金額	907,000円

社員も会社も地域も「健幸」になる！健康経営トライアル事業

取組に至る背景・事業の目的

「健康経営」は企業にとっては新たな事業戦略として、また人材確保という面からも注目されている。社員が健康で働くことができれば、職場全体のモチベーションの向上、生産性の向上、更には家族の幸せや地域の活性化へと繋がっていくことから、本事業では、企業、医療関係機関、地域、行政、各種関係機関・団体等と連携をとり、信州 ACE プロジェクトの内容を取り入れながら、多くの企業が「健康経営」を導入できる仕組みを作っていく。

事業内容

- 企業において健康の大切さの周知と「健康経営」の仕組みづくりのために国等が推進している「健康経営優良法人認定制度」取得企業を増やすためのセミナーを2回開催。
- 従業員や地域の住民に健康であることの素晴らしさや体を動かすことの楽しさを知ってもらうために、大芝高原セラピーロードでウォーキングイベントを開催。
- 仕事の業種によって体の疲れ方や疲れる場所が違うことから、それぞれにあったストレッチを取り入れることでより仕事の効率が上がるストレッチを考案。



【健康ウォーキング】

事業効果

- セミナー開催により、「健康経営」への関心が高まり、参加者アンケートでは64%の人が今後取り組みたいという結果であった。
- 「健康づくりチャレンジ宣言」企業2社→10社
「健康経営優良法人2019認定」企業2社→7社
- ウォーキングイベントでは92名の参加があり、企業だけではなく、地域の人達にも健康の大切さを周知することができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 取組や導入に関するセミナーでは、すでに取り組み始めている企業、すでにセミナーへ参加したことのある企業では、情報の重複部分が多く、参加者を募るのが難しくなった。
- 中小企業では健康の重要性はわかっているが、他に優先すべきことがあり、すぐに取り組むことが困難であり、理解していただくことが難しい。
- 健康アドバイザーの活用により、申請の支援ができ、認定企業増につながった。
- ウォーキングと癒しブース（マッサージ、アロマ等）を設置したため、参加者がより一層楽しむことができた。
- ウォーキングでは参加者と一般の方と区別をつけるため、シールタイプのワッペンを作成。明るい色だったので、見分けやすかった。
- 大きな企業ほど、健康経営の取組やストレッチを全体に一気に広報するのが難しい。また、外部と内部に分かれる業種では、広報の仕方がわかりにくい。
- 今後は、ストレッチ動画の作成で広報する案が出た。

【選定のポイント】

女性の意見を多く取り入れた企画を実施し、企業が「健康経営」の重要性を認識するきっかけづくりを行ったことにより、「健康づくりチャレンジ宣言企業」及び「健康経営優良法人認定企業」を大幅に増加させるとともに、地域住民へも健康づくりの大切さを周知することができた。今後の事業の継続・発展が期待される。

団体名	伊那商工会議所女子会プロジェクト (伊那市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	伊那商工会議所総務振興課 0265-72-7000	事業費	952,759円
		支援金額	762,000円

子どもから高齢者における咀嚼啓発活動の展開「かみかみりレー」の実施

取組に至る背景・事業の目的

かみかみセンサーの開発等、信州 ACE プロジェクトを推進する中で、歯科の課題として、食べ物を噛めない子どもや高齢者においては口腔機能低下症が問題視されている現状がある。そこで子どもから高齢者における口腔機能の回復及び、肥満予防や糖尿病等の生活習慣病予防として、咀嚼の重要性と効用を地域と連携して啓発していくことで、人々が健康な生活を送ることができるようになることを目的とした。

事業内容

咀嚼の重要性と効用を地域の学校や関係機関と連携して啓発していくために次の 1)～4) を実施した。

- 1) 「かみかみりレー」(咀嚼の啓発活動を学校から学校へとリレーしていく活動) の実施による咀嚼啓発活動の展開
かみかみりレーののぼり旗の作製 (写真右端)
- 2) 咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」による啓発活動の推進
- 3) 食育指導用ポスターの作成と配布による食育活動
- 4) 咀嚼啓発用パペットの製作による咀嚼啓発活動



【竜峡中学校かみかみりレーとのぼり旗】

事業効果

平成 30 年度の咀嚼啓発活動は 21 の学校及び行政機関等で行い、かみかみりレーへの参加校は 6 校、参加人数は、のべ 1799 人と活動を広げた。また、咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」を使用し、長野県歯科医師会や日本咀嚼学会と連携、テレビや大会等に出演し、咀嚼の効用を広めることができた。

食育指導用ポスター 3 部を上下伊那の保育園・幼稚園・小中学校及び県内のかみかみりレー実施校に配布した。親しみやすくわかりやすい内容で、教室等に貼って食育指導に役立てた。

噛む回数を計測する「かみかみセンサー」は小中学校の保健委員会やクラス等で使用した。ACE プロジェクト in 南信州で一般の方への体験や、高齢者向けの介護予防教室等でも広く活用した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

啓発活動を進める中で、子どもも大人も咀嚼に対する知識や意識がまだまだ低いと実感した。そこで今後も咀嚼の啓発活動を推進していくため、関係機関との連携を更に深めながら活動を進めていくことが必要である。そのために、保育園・幼稚園・小中学校では、かみかみりレーを継続発展させていくこと、効果的な咀嚼の啓発活動を継続させていくため、キャラクターの活用やポスター等、新しいアイデアを駆使して食育の充実に寄与していくことが必要であると考えます。また、かみかみセンサーは高齢者にも活用し、その効果の検証と啓発をしていきたいと考える。

【選定のポイント】

のべ 1,800 人以上に咀嚼啓発を行ったほか、咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」が、イベントやテレビ複数回出演し、多くの人の関心を集めた。飯田女子短期大学の持つ知見を地域全体に浸透させる取り組みも行うなど、幅広く活動している。

団体名 飯田女子短期大学 (飯田市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0 2 6 5 - 2 2 - 4 4 6 0	事業費	4 0 6 , 3 9 0 円
メールアドレス soumu@iidawjc.ac.jp	支援金額	3 2 5 , 0 0 0 円

文楽の世界と箏曲の調べを知る

取組に至る背景・事業の目的

グローバル化が益々進む今日、地域の子どもたちが将来海外で活躍する可能性も高く、自国の文化を知ることは必須となっている。そこで、文楽や箏曲を中心とした日本の伝統芸能・文化に接する機会を教育現場・福祉施設等で作り、地域の教育や文化的に豊かな地域づくりに貢献すること、伝統芸能や日本文化の普及・継承に努めることを目指した。伝統芸能等の技芸員や演奏者と生徒児童らが気軽に交流を図り、将来を考えるきっかけを作るキャリア教育の一助となることも目的である。

事業内容

教育現場や福祉施設などにプロの文楽の技芸員や箏曲の演奏者を招いて鑑賞教室や体験・実演教室など開催し、子どもたちや市民の方々に伝統文化を身近に感じ、経験として知ってもらう活動を行った。

また伝統芸能等に従事する技芸員や演奏者から厳しい修行に取り組む姿勢や自身が選んだ道を追求するプロフェッショナルな精神を学びとってもらうことで、生徒児童らに自身の将来を考えるきっかけを作り、夢を持って真摯に自分の選んだ道を歩む大切さを感じてもらえた。

また3年間継続した事業の集大成として、大賀ホールでの本格的な公演を行い、これまで文楽のワークショップなどで得た知識、興味を深めてもらった。



【小学校での文楽体験・実演教室】

事業効果

平成 28、29 年度の過去 2 年間、小中学校や福祉施設などで文楽鑑賞教室や文楽教室を行うことで、文楽という伝統芸能を認知してもらえるようになった。平成 30 年度は 7 校での学校公演と子どもや福祉施設向けの大賀ホール公演など、計 1,100 人以上の参加を得られた。

特に小規模での文楽教室は参加者の印象に残ることが 29 年度の開催から検証され、長期的な興味へとつながると考えられることから、30 年度は 5 校で開催した。また少人数での開催により、キャリア教育への成果をあげることもできた。

箏曲の実演教室では、簡単な曲を弾けるようにすることで、古典音楽への興味を促すことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成 29 年度から 2 年間かけて、少額予算や少ない人数での実施の可能性と効果を探ってきた。文楽技芸員 3～5 名での予算や受講人数の規模などが把握できたので、令和元年度以降の継続の目処を立てることができた。3 年間の活動を通じて、継続的な協賛企業や協力者を得られることもできたので、今後も引き続き小さな規模での活動を継続していきたい。

【選定のポイント】

小中高校・福祉施設への訪問公演等の事業を 3 年間継続し、子どもたちをはじめ、地域住民が文楽や箏曲の伝統芸能に身近に親しみ理解することができる機会を多く創出した。今後も、この事業で築いた協力体制を活かし、地域の教育文化の振興に寄与する自立した取組の継続が期待できる。

団体名	文楽・伝統芸能振興長野委員会（軽井沢町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	委員長 広川 美愛	事業費	5,304,769円
メールアドレス	bunraku.nagano@gmail.com	支援金額	3,668,000円

地域住民の読書活動の推進、図書館ボランティア等の市民協働への促進事業

取組に至る背景・事業の目的

- ボランティアの協力により市民が図書館運営に参加し協働する地盤を築いてきたが、ボランティアの高齢化、固定化等が課題になってきており、ボランティアへの参加を広げたい。
- 普段、図書館を利用しない市民へ本や読書の魅力を伝えるとともに、図書館が生きがいづくりや生涯学習の場となることをもっと知ってもらいたい。
- 「読書離れ」「活字離れ」が指摘されるなかで、親子で本を楽しむことから始まる読書体験から、自発的な読書活動の推進を図りたい。
- 全ての子どもが様々な場所や機会の中で自主的に読書活動ができるような環境の整備、充実を推進するため、保育園、幼稚園、小中学校、公民館、図書館等で活動しているボランティア団体や関係機関との連携強化を図りたい。

事業内容

1 「講演会」の開催

読書意欲や図書館の活用を喚起できるような著名な作家である高橋源一郎氏による講演会の開催
 実施時期：平成30年10月7日(日)
 会場：上田市上田文化会館
 演題：社会のことは、文学のことは、ラジオのことは



【超大型絵本読み聞かせ会】

2 「超大型絵本読み聞かせ会」の開催

- ・(株)ポプラ社による超大型絵本（高さ147cm、見開き240cm）の読み聞かせの他、子供たちに選んでもらった絵本の読み聞かせ。
- ・地域で活動しているボランティア団体による紙芝居、パネルシアターの実演

実施時期：平成31年1月20日(日)

会場：上田創造館

出演者：(株)ポプラ社 読書アドバイザー他4名、丸子・真田地域ボランティア8名

事業効果

- 当初計画を大きく上回る参加者を得ることができ、多くの方に図書館や読書の魅力を伝えることができた。（【講演会】計画300名、実績450名、【読み聞かせ会】計画100名、実績335名）
- 講演会の開催に併せ講師の著書のコーナーを設置したところ、貸出数が増加し、講演を機に本への興味を喚起することができた。
- 読み聞かせ会においてボランティア団体の活動を参加者に見てもらうことで、新たなボランティアへの参加が期待される。また、日頃それぞれの地域で活動しているボランティア団体同士の交流を深める機会となり、情報交換や今後の活動の連携を図っていくことが確認された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 読書意欲を喚起できるような本の紹介や企画を検討していく。
- 各地域のボランティア団体へ呼びかけ、民間企業と協力した読み聞かせ会の開催を検討

【選定のポイント】

「超大型絵本」等のユニークな催しを開催し、多くの参加者を得て、図書館や読書の魅力を伝えることができた。日ごろは各地域で活動しているボランティア団体が事業をきっかけに交流を深めるとともに、活動に触れた一般の参加者が新たにボランティアに参加するという好循環が期待できる。

団体名 上田市 連絡先 0268-22-0880 (上田市立上田図書館) メール toshokan@city.ueda.nagano.jp ホームページ http://www.city.ueda.nagano.jp/toshokan/tanoshimu/toshokan/ueda/	事業タイプ ソフト事業 事業費 880,640円 支援金額 660,000円
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------

諏訪地域の文化・自然を伝えるための資料の作成、普及事業

取組に至る背景・事業の目的

当プロジェクトは、平成 28 年の御柱の年に、小学校の読み聞かせボランティアや図書館司書が、子どもたちに御柱を含む地域の文化を分かりやすく伝えたいという思いで、紙芝居を作成することから始まった。諏訪地域の自然や文化について大人向けの研究的資料は多数あっても、子どもに分かりやすい資料が少ないという現状がある。

また、現在の少子化を目の当たりにして、少なくなっていく子どもたち（文化の担い手）に、地域の文化をどう受け渡していくのかが課題といえる。そこで、作成した紙芝居を、お話会を通して学校や地域で活躍する読み聞かせの皆様へ普及し、活用して頂くことを新たな目的とした。

平成 30 年までに、『諏訪の御柱祭』『御渡り』2 作の紙芝居を作成している。

事業内容

- 紙芝居の取材、作成、販売事業
 - ・新規『霧ヶ峰』（平成 30 年 5 月～2 月）200 部
霧ヶ峰自然保護センター、八島ビジターセンター、旧御射山神社宮司などに取材、旧御射山祭参加
 - ・作成してきた紙芝居の増刷 諏訪の御柱祭』『御渡り』（平成 30 年 9 月）各 50 部
- 紙芝居の読み聞かせ・普及事業
 - ・「諏訪のいま むかしおはなし会」開催
平成 30 年 11 月 11 日 セラ真澄にて（38 名）
 - ・小学校などでの読み聞かせ
読み聞かせボランティアとして参加している小学校などで紙芝居の読み聞かせ



【セラ真澄でのおはなし会の様子】

事業効果

- 紙芝居は県立長野図書館、諏訪地域 6 市町村の各図書館、岡谷市・下諏訪町・諏訪市などの各学校図書館などに購入頂き、利用者に供することができた。諏訪地域の小・中学校などの児童向けに読み聞かせを行って頂いている。また諏訪や下諏訪の観光協会、福祉施設などからの問い合わせもあり、児童だけでなく一般向けとしても利用範囲の広さが感じられた。
- 取材を通して地域の自然や文化を担う核となる方々とのつながりを作っていくことができ、次のテーマへとつながっていている。
- 作成した紙芝居を中心に、諏訪地域の民話やむかしばなしだけを集めた大人向けのお話会を行った。大変興味深かったとの声を頂いている。読み聞かせのベテランの皆さんなどに興味を持って別のお話会などで利用して頂くことにより、諏訪の文化をより多くの人に知って頂く機会が増えることが期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 紙芝居の作成にあたっては、専門家にお話を伺ったり、貴重な地域資料を許可を取って活用しながら、極力間違いがなく分かりやすくなるよう工夫をこらしている。歴史的な話は言葉自体が難しく、高学年以上向きになってしまうことが難点である。
- 作成に時間がかかるため、おはなし会の回数が限られてしまうことが課題である。今後も機会を作ってイベントに参加するなど、読み聞かせの機会を増やし、諏訪の魅力ある文化や自然の普及に努めたい。
- 諏訪地域に限らず、全県の皆さんにも諏訪の素自然・文化の面白さを伝えていきたい。

【選定のポイント】

専門家の知識を地域住民にも分かりやすい内容で紙芝居化することで、特色ある諏訪地域の文化を普及、継承していくことが期待される。

団体名	スワンプロジェクト（岡谷市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0 2 6 6 - 2 3 - 3 1 1 6 （株）宮坂製糸所内）	事業費	5 6 3, 8 8 2 円
メール	silkfact@po29.lcv.ne.jp	支援金額	3 6 1, 0 0 0 円

あかりこどもカフェ～郷土食を作って食べよう～お弁当を作ろう

取組に至る背景・事業の目的

相対的貧困や家庭の諸事情により、朝食を食べない子どもの増加が懸念されており、「食育」「食べる事の重要性」を理解することが必要となっている。

また、子育て世代の働き方も変化をしてきていて、女性の就労率の高まり、さらに休日に仕事の家庭も見られ、休日の子どもの過ごし方に不安を感じる。

このため、地元の短大、地域団体等のボランティアや町教育委員会の協力を得て、郷土食をテーマとしたこどもカフェ等を実施することにより、子どもたちの居場所づくりを行う。

事業内容

- こどもカフェの定期的な実施
4月から毎第3土曜日10時から15時まで。午前中は、おばあちゃんと郷土食を作って、昼食を皆で食べる。午後は、元教員・短大生のボランティアで宿題と学年にあったドリルの学習と自由時間。12回開催、参加者のべ334人。
- 「弁当の日」講演会
「食育」「食の重要性」を理解するため、竹下和男氏講演会を開催。参加者96名
- 弁当作りワークショップ
自分で弁当を作れる実践活動。4回開催、参加者のべ91人



【10月 ソースかつ丼作り】

事業効果

- 広報のためのチラシを毎回1500枚作成し町内全学校の子どもたちに情報を発信できた。その効果で参加者も予定人数を達成できた。
- 定期的に参加する子どもが多く、食事を作ることの楽しさを伝えることができた。
- 地域の方に周知することを目指したが、豊南短大の学生の参加が毎回あったことが良かった。
- カフェの食材は、町内近隣で地元食材を調達したことで季節感を感じるものとなった。
- 「弁当の日」講演会を開催したことで食の大切さを地域へ向けて発信ができた。地域新聞に掲載された。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 地域の方々には知っていただくという部分でまだまだ発信不足と感じているが地域新聞に活動が掲載される効果は大きく、新聞を見た近隣の多くの方が「あかり頑張っているね、楽しそうだね」「いいことしているね」と声をかけてくれた。
- 事前受付をして参加人数、保護者連絡先を明確にして実施した。保護者からは「土曜日5時間安心して預かってもらえるところできてうれしい」「今日、仕事だったので助かった」との声を頂いた。
- 調理にあたっては、手洗いの徹底等衛生管理(食中毒)、ケガの危険性を、子どもたちに理解させるため丁寧に説明し、注意をはらったことでトラブルがなかった。
- 次年度以降は食育の取組をさらに深めて、調理だけでなく畑で作物を作る取組を実施していきたい。

【選定のポイント】

こどもカフェは1回平均27.8人の参加があり、定期開催ができたことで、高齢者と子どもが安心して触れ合える居場所として地域に根づいた。また、事業を通じて子どもたちへ食の大切さを伝える取組とすることができた。今後の事業の継続・発展が期待される。

団体名	NPO法人辰野自立生活支援の会あかり (辰野町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-41-5256	事業費	409,771円
		支援金額	327,000円

天竜川和船造船技術の伝承事業

取組に至る背景・事業の目的

「天竜川の舟下り」は平成 28 年に飯田市民俗文化財に指定されたが、舟下りを実施している 2 社では和船の造船・操船技術の継承が課題になっていた。そこで、信南交通株式会社と天龍ライン遊舟有限公司及び協賛団体が、和船の伝承を目的とした「天竜川和船文化保存会」を設立し、和船文化の伝承に向けた事業を開始した。

本事業では、地域産木材を使用した和船づくりを次世代に伝承し、文化交流に繋げていくとともに、インバウンド観光の推進に向けた情報発信を目的として実施した。

事業内容

- 1 和船造船技術の伝承
和船の造船技術を持つ船大工を講師として招聘し、船頭 2 名に対し技術の伝承を行った。
和船には下伊那郡根羽村産の木材を使用した。
- 2 ウェブサイトの制作
保存会の活動内容を紹介するウェブサイトを作成し、地域内外に和船文化を周知した。
- 3 和船文化を通じた海外交流の実施
アメリカ人船大工を招聘し、和船の共同制作を行った。
- 4 シンポジウムの開催
アメリカ人船大工の基調講演や、和船文化の伝承についてのパネルディスカッションを実施した。
- 5 造船見学・体験会の開催
小学生や高校生、地域住民に対する造船見学会や体験会を開催した。



【地元小学生による見学・体験風景】

事業効果

- ・船頭 2 名を船大工に育成し、造船の流れや特殊な道具の使い方などを習得した。
- ・船大工体験会は 3 校 71 名、造船見学会は 82 名の参加があり、地域住民に船大工への理解と興味を深めてもらうことができた。また、メディアの取材があったことで全国的にも希少な和船造船文化があることを周知できた。
- ・シンポジウムには 41 名の来場者があったほか、新聞の取材もあり多くの方に活動を周知できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

訪問された方のご意見

- ・市田で造船しているとは思わなかった。
- ・舟を外注していると思った。
- ・実際やってみると難しい。
- ・木の香りが心地よかった。
- ・釘打ちのリズムを聞くと踊りたくなる。

工夫・苦労した点

- ・曲線を操るのが難しい（家は直線だが、舟は曲線）
- ・無理すると木は割れてしまうため、木のご機嫌を伺いながら慎重に作った。

今後の取り組み

- ・写真でしか見たことのない「つなぎ船」を作る。

課題

- ・設計図が存在しないので、今後設計図を作成していかなければならない。

【選定のポイント】

南信州地域の文化である「天竜川の舟下り」や和船が多くの方に再認識されるきっかけとなった。また、企業や地域の枠を超え「天竜川」を核とした観光振興を推進していく機運が高まった。

団体名 天竜川和船文化保存会（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0265-24-3345	事業費	2,845,457円
ホームページ: https://www.tenryu-wasen.com/	支援金額	2,276,000円

科学実験教室「超低温の不思議な世界&リニア」

取組に至る背景・事業の目的

南信州飯田おもしろ科学工房では、毎週末に行う理科実験ミュージアム、地域の公民館などに出向き理科実験などを行う出前工房、小中学校での科学実験教室・科学クラブ支援などを行っています。

数ある実験メニューの中で、超電導リニア中央新幹線長野県駅ができるこの地域では、「超低温の不思議な世界&リニア」をテーマにした実験を行う学校が増えてきました。この実験教室は、科学への興味を深めるだけでなく、超電導体を用いてリニア新幹線などの技術研究のすばらしさに触れ、まだまだ未開発の超電導を使った「ものづくり」への夢や探求心などを高めることを目的にしています。

そして、リニア駅ができるこの地域や将来について考え、この地域がどのように変わっていくか、どのように変わらないでほしいか、子どもたち一人ひとりが向き合い、考え合う機会を創出します。

事業内容

液体窒素を使い、花や風船など身近なものを凍らせる実験や、超電導体の不思議を体験する実験を行いました。またリニア中央新幹線に関わる超電導磁石・浮上・推進の原理もデモキットを使って説明しました。リニア中央新幹線の駅ができる飯田だからこそ取り組みたい実験が行えました。

- 1 理科実験ミュージアム
- 2 出前工房
- 3 学校科学実験教室・科学クラブ支援
- 4 教職員研修会



【実験教室で興味津々の子どもたち】

事業効果

- ①おもしろ科学工房の活動を発展させ取り組むことができました。
- ②学校での科学実験教室では、地域の方々がスタッフとしてサポートを行う体制が整いつつあり、学校と地域が一緒になって、子どもを育てる取り組みにつながりました。
- ③リニア中央新幹線開業への関心が高まる中、実験を通して子どもたちにリニアの原理を伝え、そこから地域や自分たちの将来を考えるきっかけづくりができました。
- ④下伊那理科教育研究会の理科基礎実技講習会にて、超伝導体を用いた学校授業の展開について、教職員の皆さんと理科実験の新たな方向性について考える場を設けました。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

実験に必要な不可欠な超電導体は特殊なものであり、国際超電導産業技術研究センターから借用ができなくなったため、元気づくり支援金を活用して整備しました。これにより今年度は学校や地域において、「超低温の不思議な世界&リニア」をテーマにした科学実験教室を10回開催することができました。また借用では、費用や実施期間の制約などの問題がありましたが、年間を通して学校や地域からの要望に応えることができるようになりました。参加者からは「子どもがキラキラした目で実験を見ていた」「こんな身近に科学に触れられる場が、なかなか無いので本当にありがたい」などの感想も寄せられました。

今後も、こうした実験教室をきっかけに、学校と地域との連携が進み、多くの子どもたちに科学の不思議や楽しさに触れてもらう場の提供をしていきたいと考えています。

【選定のポイント】

8年後に開通が予定されているリニア中央新幹線の原理や仕組みについて、実験教室を通じて多くの子どもや保護者に伝えることができた。また理科の教員向けにも実験教室を実施するなど、リニアを軸とした理科実験教育のさらなる広がりが期待できる。

団体名	南信州飯田おもしろ科学工房（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
事務局	飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課	事業費	528,984円
連絡先	0265-22-4511（内線3742）	支援金額	396,000円
ホームページ	https://www.i-kagaku.net		

木曾ペインティングス

取組に至る背景・事業の目的

- 木曾地域は観光地としては来訪者が減少傾向にあるので、イベントにより観光客の増加や中山道など地域資源の活用に繋げたい。
- 中山道の間地点でアーティストを招致して行う芸術活動により、新たな木曾の観光地や移住地としての魅力を生み出す。また、アーティストが企画するワークショップの開催や地域住民との共同作業により、世代や文化を越えた交流を生み、暮らしの楽しみを増やし、新しい地域文化として根付かせたい。
- 地域の子どもたちが一線で活躍するアーティストから美術を学ぶ機会を作り、美術が身近な存在となり、視野の広い寛容な心を育みたい。
- 地域に眠る自然資源を発掘し、持続可能な絵画の在り方について模索する。

事業内容

- 全国からアーティストや美術を学ぶ学生が集まり、木曾を題材に滞在制作し展覧会を行った。作品の素材も地域資源を活用した。
- 定期的に美術作家を招き、地域住民向けにワークショップを行った。日義小学校生徒とは複数回の課外授業を通じて土地の持つ歴史“旗挙げ”の準備、開催に取り組んだ。
- 展覧会のテーマ“けものみち”に因んだ映画「アルビノの木」上映会と監督のトークイベントを開催した。
- 参加型イベントでは多くの出店者が集い、参加者自らパフォーマンスやライブイベントを行った。
- 地域企業とコラボレーションし、オリジナルポスターや商品ラベルを共同作成した。



【 “旗挙げ”の様子 】

事業効果

- 展覧会では展示作品を購入したいとの問い合わせ等があり、美術への興味や関心の高さが伺えた。
- 学校の授業枠を使った課外授業として、また地域公民館分館との共催のワークショップを開催することで、対象を絞り内容を充実させた。
- 空き家を展示会場として利用するなど、新しい空き家活用の道を示した。
- 映画や展示等を通じ、地域住民が自分たちの地域が抱える問題について考えるきっかけとなった。
- 地域企業とのコラボレーションを継続的に行ってきたことで地域からの協力を得られた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域内の宿泊施設が少なかったが、旅情庵(木曾町)と良好な相互関係を築き、招致アーティストの滞在場所と出来た。
- 住民ボランティアを増やし、アーティストが更に地域と関わりながら活動が出来るよう取り組みたい。
- アーティスト夫婦の、滞在先から制作場所までの移動手段が無いのが今後も課題となる。
- 次年度も地域の問題をテーマに展覧会イベントを同時期に行う。

【選定のポイント】

様々な所で地域住民が作品に触れ、作家と交流した。特に地元小学生が地域を舞台として芸術に触れる良い機会となった。さらに、空家を会場とする新しい活用の道を示した。引き続き住民を巻き込み、長期継続的に活動を定着させていくことが期待される。

団体名	木曾ペインティングス実行委員会 (木曾町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	050-3700-5277 kisopaintings@gmail.com	事業費	1,624,683円
ホームページ	https://www.kisopaintings.com	支援金額	1,283,000円

Local Active—Learning Project 事業

取組に至る背景・事業の目的

木曾町開田高原には学習塾が無く、学習塾に通うには木曾福島地区まで通わざるを得ない。しかし、唯一の公共交通である路線バスも本数が少なく地理的に不利といえる。保護者や生徒から放課後学習支援を望む声は多いが、引き受けられる住民がいないのも現状である。そこで、慶応大学の学生と協力し、大学生の夏と冬の長期休業期間中に開田高原に滞在してもらい、大学生による学習支援により学力の底上げを図りたい。

また、高校卒業と同時に都市部へ流出することが多い年代を地域に呼び込み、交流人口の増加を図る。大学生には積極的に地域行事に参加してもらうことにより、一緒に学ぶ中学生も地域行事に呼び込み、地域の活性化を図る。

事業内容

- インターナショナル・サマー・キャンプの開催
8月6日から9日の夏休み期間を利用して中学校生徒と慶応大学生との異文化交流事業「インターナショナル・サマー・キャンプ」を開催。開田の課題を模索し、解決策を発表。
- 夏期冬期学習支援事業の開催
本来の目的である生徒の学力向上のため、放課後学習支援を行った。夏休み期間中は高校生や小学生の参加もあり、幅広い年代の学習支援を行った。
夏期8月6日～25日、冬期2月6日～3月15日。



【冬期学習支援の様子】

事業効果

- 学生の夏期、冬期の長期休暇を利用して、生徒、児童の学力向上のため学習支援を行い、毎日10人前後の参加があった。
- サマーキャンプで異世代異文化の交流を行い、地元の生徒一人ひとりの意識改革ができた。
- サマーキャンプ期間中、大学生が試住住宅を拠点として活動している。近隣住民から野菜の提供があったり、大学生も住宅周辺のごみ拾いや、清掃活動をしたりと交流の幅を広げ、地域に溶け込んだ生活がなされている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

学習支援、サマーキャンプの実施により、教師、保護者からは「生徒の勉強することへの意識、姿勢が変わった」、また、生徒からは「先生以外から教わることにより友達的な感覚で何でも聞いて教わることができて楽しい」と両方から好評を得ている。更に活動、信頼を深めるため大学生が毎月1回程度、休日を利用し開田を訪れ、生徒、児童の学習支援にあたっている。

【選定のポイント】

開田中学校、慶応大学双方の積極的な活動により、単なる放課後支援、短期間交流にとどまらず、つながり人口の増加に加え、つながりの密度も期待以上と評価できる。今後、他地域へ取組が拡大することを期待する。

団体名	木曾町	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	開田教育事務所 吉田和彦 0264-42-3331 (開田支所内)	事業費	573,058円
ホームページ	http://www.town-kiso.com	支援金額	458,000円
メールアドレス	k-kyoiku@town-kiso.net		

ふれあい町づくり 大日堂事業

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化の進展が町会の運営にも大きな影響をもたらしている。そのため、町会の皆さんがまとまり易い沢村の文化財群を活用し、その存在を子どもから高齢者に至るまでアピール、町会役員の活躍の目が目立つ町会から総活躍町会に変化していく事を事業目的とした。

事業内容

- 講演会と大日堂文化財の見学
深志高校「鼎談深志」「地歴研究会」と沢村の文化財について学習会の実施。
- 子ども達による「沢村音頭」の練習と納涼祭参加
将来を見据えて伝承を確実なものとするためにオリジナルTシャツを作成し、練習を行った。
- 第3回沢村納涼祭の実施
沢村音頭を踊り、町会の親交を深める機会となった。
- 焼き芋会の実施



【沢村音頭 地域への広がり】

事業効果

- 沢村音頭の復活と広がり、城北に定着しつつある踊り
子ども会のラジオ体操終了後、「沢村音頭」の練習により裾野の広がりを実現。沢村音頭は沢村町会のみならず、踊りを通して城北地区の絆が一段と深まった。
- 子ども達への文化財勉強会を実施
紙芝居による文化財勉強会を実施、地域のお宝をわかり易く説明、理解度を深めた。
- 講演会・広域協力体制の構築への取り組み
地域フォーラム鼎談深志と交流を行い広域協力体制の確立を図った。
- 焼き芋会
子ども達の喜び、発想は町会運営に良い影響を与えた

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

最終目標として、高齢化がもたらす限られた役員のみが運営する町会から脱却し、町会全体で担う総活躍町会を目指し、広域で補完し合う相乗効果を目指とする。町会運営が厳しくなる中、子どもから高齢者まで楽しめる生き生きとした町会運営を今後も心掛けていく。

【選定のポイント】

町会活動の活性化が大きな課題になっている中で、高校生との連携をしながら、地域の文化伝承に取り組み、地域活性化につなげており、先進的なモデル的な事業であるといえる。

団体名	沢村町会（松本市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	曾根原 力	事業費	529,885円
	0263-32-9785	支援金額	368,000円
	sonehara.tsutomu@gmail.com		

箱膳を活用した食育推進事業

取組に至る背景・事業の目的

伝統的な地域の暮らしや食文化、食の持つ「作法」「行事（感謝、いのり）」「自給（ふるさと、平和）」が高度経済成長とともに消えゆく危機感から、これらを次世代に引き継いでいきたいと、平成 21 年に当会前身のひらがな料理普及隊を結成。その後、和食が世界の無形文化遺産に登録されたことから、平成 29 年度に「信州ひらがな料理普及隊」として再結成した。

次世代へ「食べごと」の文化を伝えるため、江戸時代に盛んに庶民に使用された、木の箱の中に食器などを収納する「箱膳」をツールとして活用。ふるさとに誇りを感じるおやつや、伝えたい日常食などの地域の食を意識した食育活動を通じ、豊かな地域文化の伝承と創造に寄与する。

事業内容

日本人の食に向かう「作法」「行事」「自給」の考えを、楽しみながら次世代に引き継ぐため、箱膳という和食の食事スタイルに着目。箱膳体験を傘下の会員団体が開催し、かつ児童生徒や一般の方にも理解できるよう、各々に応じた学習用パンフレットを作成し、新しい信州らしいライフスタイルを提案する事業。

- 箱膳体験の実施
- 食育用及び箱膳用学習パンフレットの作成
(小学生版、中学生版、高校生版)
- パンフレットを使った公民館講座や学校での座学の開催



【箱膳体験・食育学習の様子】

事業効果

- 箱膳体験では、当会の参画 10 団体で全 80 回を開催、1,840 人が受講。特に、観光客やインバウンド向けにも要望が多く、善光寺 100 人箱膳など多様な方々に対し活動を繰り広げることができた。
- 公民館講座はもとより、学校栄養教諭、シニア大学、全国規模のサミットや大学等にも活動は広がり、活発に活動を実施したことで、企業など新たに学習を希望する者がでてきているなど、波及効果があった。
- 今までは一律のパンフレットしかなかったが、今回、10 種類の食育基本セット、小中高校生に区分した箱膳体験用のパンフレットを作成したことで、対象に合わせた食育学習会を開催することができるようになった。
- 伝統的な地域の暮らしや信州の食文化、そして食にまつわる「作法」「行事」「自給」、お米の学習を通じて、子ども達から「普段から意識したい」「食事に感謝をしたい」などの感想も聞かれ、理解を深めることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

対象に合わせた学習用教材を作成したこと、メディアの方にも PR し、情報として多く取り上げていただいたことなどが功を奏した。

今後は、引き続き学校や公民館活動に力を入れるとともに、令和 2 年 6 月に開催される予定の全国食育推進大会でも PR し、信州オリジナルの「箱膳を活用した食育」を全国に伝えていきたい。

【選定のポイント】

観光客向けや小中学生等年代にあわせた食育学習用パンフレットの作成と活用により、箱膳をツールとした信州の昔から伝わる料理などの食文化体験や作法等の学びが魅力あるものとなったほか、積極的な体験活動により、広く発信することができ、信州の伝統的な食文化の伝承に貢献した。

団体名	信州ひらがな料理普及隊（長野市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 長野県農村文化協会内	事業費	1,829,520円
専用電話	090-5818-6880	支援金額	785,000円
FAX	026-228-8021		
ホームページ	linknet.naganoblog.jp		
	伝える食と農リンクネット 信州ひらがな料理普及隊		

市民第九コンサート（プレ飯山音楽祭）事業

取組に至る背景・事業の目的

飯山市における文化芸術活動の多くは中高齢者が中心で、特に芸術音楽（合唱分野）は市内中学、高校でのクラブ活動もなく、市民活動への若年層の参加も非常に少ない状況であり、今後の文化芸術活動の衰退が懸念される。平成 28、29 年と 2 回開催した市民第九コンサート事業に引き続き取り組み、市民第九コンサートと市内・近隣の合唱団、他ジャンルの団体、個人の音楽愛好家が気軽に参加できる交流会、プロによる子供向け企画、アウトリーチコンサート、ワークショップをプレ飯山音楽祭として位置づけ、仲間づくりや若者をはじめとした人材づくりなど、持続ある文化芸術活動の推進を図り、来年度、飯山音楽祭に発展させることを目的とする。

事業内容

市民の活力向上と仲間づくり、人材づくりなど持続ある文化芸術活動の展開につなげる。

- ・市民第九合唱団の活動（練習）を通じ、仲間づくり、人材づくり。5月～11月に計 17 回。団員 111 名。
- ・市民第九コンサートの開催 11 月 25 日（入場者 472 名）
- ・オープニング交流会、0 歳児から楽しめるコンサートの開催 11 月 23 日（交流会 5 団体、1 個人、入場者 150 名）、
（0 歳児コンサート 入場者 215 名）
- ・清泉女学院短期大学、飯水音楽同好会の発表（11 月 24 日）
- ・なちゅら音楽祭 2018 【76 名参加】、大阪コミュニティー合唱祭参加 【20 名参加】、市民交流の実施
- ・常岩の里「ながみね」でのアウトリーチ活動 【60 名参加】



【コンサート本番の様子】

事業効果

- ① プロのオーケストラやソリストの出演により、質の高い文化芸術の提供が市民等にできた。
- ② 日頃の練習やなちゅら音楽祭 2018、大阪コミュニティー合唱祭への出演などにより、市民交流が活発に行われ、活動を通じた仲間づくりや積極的に運営に関わる機運が回を重ねるごとに増え始めた。
- ③ 文化芸術の普及や振興を目的に、普段、文化芸術に触れる機会の少ない方を対象にしたアウトリーチ活動では、高い評価をいただき、以後の開催を希望される声が多く聞かれた。
- ④ 今回公募した小学生が平成 30 年より少年少女合唱団として活動を始めた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

様々なジャンルの音楽団体・愛好家が加わったことで多方面で評価されるようになった。活動も市民に浸透しつつあり、文化芸術に対する関心も高まった。

活動の継続を目的に企画運営に携わるスタッフを取り込み、仲間、人材づくりを拡充し、演奏家等の来飯に併せたアウトリーチ活動を引き続き実施していく。また、地元の催事への参加など、合唱団活動を通じた文化芸術の普及と市民交流の拡大に貢献していきたい。

【選定のポイント】

「プレ飯山音楽祭」として、市民協働による第九コンサートに加え、プロによる質の高い音楽の提供、アウトリーチコンサートを実施し、市民が文化芸術に親しみ学ぶ意欲を喚起し、市民交流や文化芸術への関心を深めることができた。これらの取組を飯山音楽祭へと発展させ、地域住民のさらなる活動の広がり等が期待できる。

団体名	市民第九コンサート実行委員会（飯山市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0 2 6 9 - 6 2 - 3 3 4 2 （飯山市公民館）	事業費	4, 5 8 1, 5 6 8 円
		支援金額	1, 2 0 0, 0 0 0 円

ふれあいサロン 地域住民の交流の場づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

- 近年、住民同士の関係が希薄になることによる高齢者等の「孤立」や一人で食事をとる子どもや高齢者等の「孤食」が社会問題になっている。
- 地域の医療機関や老人ホーム等の介護保険事業とボランティアを中心とする多様な担い手による、住民の支え合い・助け合いの地域づくりや住民運営サービス事業を作り出すことを柱とする地域支援事業を組み合わせた地域包括ケアシステムの構築が求められている。
- 子どもからお年寄りまで地域の住民の交流の場の運営を通じて、住み慣れたところで安心して暮らせる心豊かな地域づくりに貢献したい。

事業内容

- 信州うえだ農協上田東支所豊里店の空き店舗を改装して、誰でも自由に使える「ふれあいサロン hinata bocco とよさと」をオープンし、ボランティアスタッフにより運営している。
- サロンでは、様々な取組を行っている。
「飲食物の提供」コーヒーやお茶のほか、ランチの提供
「趣味の教室・イベントの開催」コンサート、折り紙教室、もちつき大会、お茶会 等
「健康体操教室・よりあい広場等の開催」
介護予防の健康体操、認知症ケアの専門職と認知症の皆さんやご家族の皆さんの集い 等
「こども食堂」子どもへの食事提供、世代間交流 等



【地域の集いバンドコンサート】

事業効果

- サロンの来場者は平均 38 人／日を超えており、多くの皆様が集う場所となっている。
- 趣味の教室、コンサートやもちつき大会等のイベントを開催し、地域住民の皆様との交流を深めることにより、世代を超えて誰もが気軽に集い、会える場所としての機能が充実してきている。
- サロンの運営ボランティアスタッフとして 56 名が参加し、来場を機に参加される方もいる。
- 豊殿地区では、高齢者が安心して暮らし続けられる地域を目指して「安心の地域づくりセミナー」を開催し、住民が介護保険制度や認知症理解について学んでおり、セミナーの修了生がサロンの活動に運営ボランティアスタッフとして参加するなど、「学んだことの実践の場」になっている。また、サロンでは認知症当事者がスタッフとして参加しており、認知症になっても地域での活動が継続できるという理解が地域に広がっている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- サロンの事業を、参加するボランティアスタッフも「楽しむ」。地域の皆さまも「楽しむ」。子供から大人高齢者に至るまで、誰もが気軽に参加して「楽しむ」ことで広がる交流の場を地域支援活動の基軸とし「誰もが住み慣れたところで安心して暮らせる心豊かな地域づくりに貢献する。」活動とすること。
- ボランティアスタッフ一人一人が持つ「特技」、サロンに集まる皆様から募集する活動に対する「アイデア」を、どのように結び付け実行に移したら良いかを課題として常に検討している。
- 認知症スタッフの活動を地域のより多くの皆さまに理解していただけるよう集いの場を運営すること。
- 募集したアイデアや希望により、みんなで「楽しむ」ことを考え趣味の教室「オカリナ」「囲碁」「将棋」「オセロ」等の開催を計画しています。また、地域の皆さまがひとところに集う「もちつき大会」等サロンに集うみんなが楽しめるイベントを開催する。

【選定のポイント】

豊殿地区では、住民主導で認知症理解等のセミナーを開催しており、サロン開設により、セミナーの修了生が「実践の場」としてサロンの運営に加わるほか、認知症当事者も運営に参加することで、認知症になっても地域で活動が継続できるという理解が地域に広がる等、好循環が生まれている。

団体名	豊殿ふれあいサロン運営委員会 (上田市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0268-35-0066 (JA豊里店内)	事業費	542,160円
		支援金額	421,000円

木障をなくして美しい里山をつくる杣人の事業

取組に至る背景・事業の目的

原村は「日本でもっとも美しい村」連合に加入し、美しい村づくりを進めているが、里山の保全是課題が多く、対応も簡単ではない。木障（こさ）による田畑の作物の生育障害や冬季の道路凍結に加え、近年では台風などの原因による風倒木も増えている。山林樹木の手入れが行き届かない、住民の高齢化による屋敷林の手入れもままならないなど、安全な生活環境が脅かされている状況もみられる。

そこで、地域住民と協働し、木障解消のための伐採や間伐を実施し、苗木を育て植林も行う中で里山の風景を守っていく活動をめざす。

伐採木は薪ストーブの薪として製材し、会員が作業参加の度合いに応じて分配し、残った材は会の活動に賛同した方々（賛助会員）に頒布することで活動原資を得る。

また、本活動の継続的な運営を図るために杣人（そまびと）教育講座を開催し、会員の技量向上や賛助会員との交流の輪とし、新たな会員希望者を増やすことでさらに活動の幅を広げていく。

事業内容

- 活動拠点「深山フィールド」の整備・拡充
杣人育成を行うための「杣人ハウス」の設置、通年作業を可能とする作業場「杣人キャビン」を建設した。後者は建築家の指導の下で会員自らが作業にあたり完成させた。
- 薪割り機・運搬車・チップパーなどの既存機材をフル活用し、作業の量、質ともに大幅に向上させた。
- 賛助会員の人々を対象に薪ラック作り講座、薪割り講座、キノコ菌打ち講座を開催した。
- 深山フィールドの一角にドングリ畑を整備し、育苗を行い、将来の植林に備えるとともに、キノコ育成エリアも設置した。
- これまでの活動成果を盛り込んだ新たなパンフレットを作成し、店舗を中心に設置した。また、ホームページでの発信についてもこれまで以上に注力した。



【薪ラック作り講座の様子】

事業効果

- 活動実績
昨年度と対比すると活動日数では 113%、投入人員では 116%それぞれ増加した。また、薪頒布実績も前年比の 1.5 倍となり、会運営の自立化を見通せるまでになった。
- 伐採作業の受注
木障解消のための間伐を中心に依頼を受けて作業を実施した。件数は昨年と同様であったが、機材の充実があり、作業規模も大型化した。また、中新田区など行政からの依頼により伐採木搬出作業に積極的に協力した。
- 新たな会員の受け入れ、賛助会員への呼びかけ
多くの移住者が新たに会員となり活動に参加し、その定着化支援にも寄与できたと考える。また、賛助会員にも講座だけでなく、実作業参加への呼びかけを行い、参加機会を作ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

伐採作業は危険を伴う側面があり、新たな会員を迎える中で伐採技術や機械類の操作の習得などの教育は重要と考え、作業前のミーティングで注意喚起を徹底した。

地域住民から感謝や労いの言葉をいただいております。連携はスムーズであるが、今後の活動を進める中でさらに密接な関係作りを心がける。次年度以降、継続的に会活動を進めていくためには作業対価を求める場面もあり、それにふさわしい丁寧な作業を行うことが求められる。

今後の活動として、景観創出の観点から花づくり活動なども賛助会員を巻き込んで実施していきたい。

【選定のポイント】

住民の要望に基づき、協働して木障の除去活動をするとともに、次世代を担う子どもたちの景観意識を啓発することにより、美しい村づくりの推進が期待される。

団体名	杣人の会（原村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-6793-1490 (担当:小林)	事業費	1,986,519円
HP	http://somabito.net/	支援金額	1,441,000円
メール	info@somabito.net		

ユニバーサルツーリズム推進に関わる受入環境整備事業

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化が進む我が国にあって、人口に占める高齢者や障害のある方の割合は3割以上を占めており、「旅行に行きたい」「あの場所で楽しみたい」「あの人に会いたい」などの思いが、「旅行先の環境が整っていない」「家族や旅行先の関係者に迷惑を掛けてしまう」「旅行先の情報が不足していて、不安な部分が多い」などの現状や、本人及び家族などの「心のバリア」を要因として、実現を妨げてしまっているケースが多く見受けられる。そんな、「阿智村へ行きたい!」「阿智村で楽しみたい!」という気持ちを叶えるために、「阿智村において何ができるのか、何を目指していくのか」…、今年度を「阿智村ユニバーサルツーリズム元年」と位置づけ取組をスタートさせた。年齢や障害の有無などに関係なく、誰もが楽しめる地域の創造を目的としている。

事業内容

- ① ユニバーサルツーリズム阿智村セミナー開催
有識者や先駆者の意見や経験談を聞きながら阿智村が取り組んで行くべきユニバーサルツーリズムの方向性を探り事業の柱を決めることを目的に開催。参加者47名。入場無料。
- ② バリアインフォメーションの整備
宿泊施設19軒、その他施設3軒のバリア情報の調査・計測を行いホームページ(レスポンシブル対応)を作成。
- ③ 牽引型など各種車いすの購入及び貸出・管理体制の構築検討



【牽引型車いすを活用した
モニターツアー】

事業効果

- ① 阿智村セミナーにおいては、当地域においては全く情報が無かったユニバーサルツーリズムの基礎情報を周知することができ、今後の取組の第一歩となった。新聞報道により、障害を持つ方からも問い合わせがあった。
- ② バリアインフォメーションの整備により、障害を持つ方への情報開示ができたばかりでなく、旅館を初めとする施設・機関への意識付けとなった。県内では先進事例に挙げられる。
- ③ 自組織では叶わなかった各種車いすの購入ができ、旅館等での貸し出しシステムの確立へ向けた基礎ができた。
- ④ 阿智高校地域政策コース観光エリア3年生との協働により、観光だけでなく防災という観点からの実証実験も行うことができ、その阿智高校の活動は第6回長野県おもてなし大賞・特別奨励賞を受賞することとなった。
- ④ 飯田下伊那管内での地域トラベルサポーター研修開催に協力をし、6名が公認を受けた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

温泉地全体、あるいは地域一体という取組事例は少なく、10月のセミナーで知り合うことができた先進地(諏訪地域)を参考にしながらも、道なき道に行くような取り組みだった。取組を進めるにつれ、仲間が増え、新しい事業に取組む意義や価値を改めて感じた。観光庁ユニバーサルツーリズム検討会委員で(株)JINRIKIの中村正善社長からは「地道な取組だからこそ持続可能性がある」と評価をいただき、また1年をかけて協働して取り組んだ阿智高校地域政策コース観光エリア3年生からは「高齢者や障害を持った方など観光は全ての人を対象にしていると知り観光の持つ可能性を感じた」などの声があった。また、次年度には、当該年度の事業でできた基盤を活用し飯田市の介護全般を手掛ける企業と提携し、介護者付き添いの支援プラン「昼神☆プレミアムサポート」をスタートさせることができた。

【選定のポイント】

健全者だけでなく、高齢者や歩行弱者、あるいは障害を持った方でも阿智村に観光に行ける、という選択肢を本事業により提示することができた。多様な観光客の受け入れ実績の増加により、観光地としてのさらなる魅力化が期待される。

団体名 (株) 阿智昼神観光局 (阿智村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0265-49-3171	事業費	4,761,725円
ホームページ: https://www.hirugamionsen.jp/	支援金額	3,768,000円

田辺堰（新川）周辺整備

取組に至る背景・事業の目的

今回の取り組む田辺堰（たんべせぎ）は、文化3年（1806）高島藩の宮川直線化工事により発生した旧宮川河川敷（幅10m～11m）を利用して整備した田辺区、上金子区、神宮寺区のかんがい用水路である。諏訪大社上社の東約500メートルに位置し、諏訪地域をつかさどった大祝邸が隣接し、上社の参道として多くの方が利用した今橋が事業の起点に位置している歴史ある地である。

歴史的な価値を再認識し、諏訪市の「上社の社・歴史の散歩道」と一部として、自然に配慮した河川改修及び散策路の整備を行うもので、地元住民及び観光客に親しみのある空間を形成し、この地域を多くの方が訪れてくれる魅力ある空間の形成を目指す。

事業内容

平成29年に引き続き田辺堰の周辺整備として自然石や木杭等自然に配慮した材料を使用し護岸整備を行うことにより生き物と触れ合い空間を形成する。

- ・自然石を利用した 護岸工 L=113m
- ・民地からの雨水排水のための水路整備 L=114m
- ・散策路にシャラ等を植栽
- ・小冊子「昔のことをもっと知ろう、宮川の河川の役割」
A4サイズ8ページカラー版を800部印刷し、中洲小児童に配布し校外学習に利用。



【住民参加の雨水排水路工事の様子】

事業効果

- 自然石や間伐材の木杭など使用した自然に配慮した護岸工事や散策路を整備することにより、ホタルの生息や水鳥の飛来など用水に関わる生き物とのふれあいの場が形成できた。
- 田辺堰は、上流域の上金子区、神宮寺区及び下流域である田辺区の用水や生活用水として古くから地域住民に親しまれてきたが、今回の事業を通して上流及び下流域の果たす役割など認識が深まった。
- 江戸時代の高島藩が行った宮川の直線化工事により廃川敷となった区間を利用した田辺堰に、散策路を整備することにより、諏訪市の「上社の社・歴史の散歩道」と一部として取り入れて頂き、より多くの方が楽しんで頂けることになった。
- 平成30年度には、中洲公民館との協働作業により冊子「宮川の歴史と役割について」8ページを作成し、4月には、中洲公民館主催の散策学習会（参加20名）を、7月から～8月にかけて中洲小学校の5年生を対象に課外学習会（延べ3回、参加104名）を行い、9月には諏訪市公民館主催のブラ諏訪（参加20名）などにより田辺堰についての理解を深めることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

これまで、田辺堰の両側は有効な利用策が無いままに放置されてきたため、廃材の置き場などにされるなど、個人所有地化、荒れ地化していたが、護岸整備や散策路の整備を進めるにあたり、沿川の方の理解を得るため、地元説明会を実施、境界立ち合いをすることにより、「河川はみんなのもの」との意識が芽生え、自発的に廃材の片づけが始まった。

良好な維持管理を自発的に行うように田辺堰改修委員会が率先して草刈りなど維持管理を行い、地域の人たちからも自発的な管理を行うような雰囲気をつくる啓蒙活動を行いたい。

【選定のポイント】

自然に配慮した護岸整備を行うとともに、住民自らが地域資源である田辺堰を共有財産として維持管理する機運を高めることにより、住民及び観光客が積極的に利用する、親しみのある空間形成が期待される。

団体名	田辺堰（新川）改修委員会（諏訪市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	諏訪市湖南639（担当：八幡）	事業費	2,903,824円
メール	yawatayoshio@yahoo.co.jp	支援金額	2,181,000円

若宮区 区民交流の場再生事業

取組に至る背景・事業の目的

富士見町若宮区は高齢化が進む中、お年寄りのふれあいの場として長い間活用してきた『風月庵』がおよそ築 350 年以上の時を経て、茅葺き屋根の老朽化により改修が必要となった。このため数年前の区総会に於いて、改修の方向で決議され新たな委員会を立ち上げて改修をする事となった。

風月庵改修委員会を開催する中で、貴重な茅葺きの建物を後世に残すために、葺き替え作業を専門家に依頼し、それに関わる作業は区民が出来るだけ従事することにより、その技術を継承し、後世に残していきたいとの思いで、茅取り作業等は若者からお年寄りまでの区民総出の一大行事とし 3 年計画の 2 年目として今年度も、茅葺き作業に着手し、茅取り作業と茅刈場の保全に取り組む事とした。また、今年度は、改修後の『風月庵』の利用方法についても区民の年代別の代表者により検討会議を開催した。

事業内容

- 地域の貴重な財産を後世に残すための環境整備事業
 - ・茅葺き作業に延べ 38 人の参加（4 月～12 月）
 - 年齢別 20～30 歳代 10 人 40～50 歳代 13 人
 - 60～70 歳代 15 人
 - ・建物周辺の環境整備に子供育成会 21 人の参加（10 月）
 - 対象 小中学生（子供育成会）
- 区民総出、元気が出る思い出作り作業
 - ・茅取り・運搬・保管他作業に 144 人の参加（4 月～2 月）
 - 年齢別 20～30 歳代 35 人 40～50 歳代 58 人
 - 60～70 歳代 51 人（各年代に女性を含む）
- 風月庵利用検討委員会の開催
 - ・設立委員会を含め 4 回開催 委員数は各年代から 17 名



【茅葺作業の様子】



【茅取り作業の様子】

事業効果

- 各事業に於いて、各年代の区民が集い作業することにより、昼食時には昔話、ふれあいの場所作りの意見交換の場となり、思い出作りの場として有意義な時間となった。
- 子供育成会による周辺整備作業により、子供達が今まで関心がなかった『風月庵』を意識するようになり、周辺が子供達の遊び場となりつつあり、施設の利用方法についても子供らしい意見・要望が作業を通じて出た。
- 今年度新たに設立した利用検討委員会では、『風月庵』の今後の利用方法についても数多くの意見・アイデアが出た。
- 新たな利用方法に子供たちのふれあいの場としての利用について、次年度検討実施する事となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も、最終年度に向けて計画通り改修を進めるが、改修後の『風月庵』利用方法については委員会の中で様々な意見があり、今後も利用検討委員会を都度開催し、特に、子供達とお年寄りが気軽に使用できる施設としての利用方法の検討に取り組んでいきたい。

また、今後は、周辺集落・町・小学校等にも利用していただけるための取り組みも実施したい。

【選定のポイント】

多くの住民が地域のふれあいの場である『風月庵』を協働で再生することにより、郷土愛の醸成及び地域内の多世代交流の促進が期待される。

団体名	若宮区（富士見町）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	090-3092-6279 （担当：名取）	事業費	1,659,640円
		支援金額	1,105,000円

白馬村どんぐり地区景観整備事業

取組に至る背景・事業の目的

いわたけやま

どんぐり地区は、白馬村北部の岩葦山の南傾斜面に広がる別荘地に位置し、住民は宿泊業を営む者や移住者が大半を占めている。当地区も他の地区と同様に、人口に占める高齢者の割合が高くなってきており、住民同士の交流が少なくなる傾向がある。

そんな状況の中、当地区を生き甲斐と誇りが持てる地区にしたいとの想いを持つ者が集まり、当会を設立した。

当会では次のコンセプトの下で活動を行っている。

- ・白馬村随一の景観を誇るどんぐり村の展望台を村内外にアピールし集客を図る
- ・展望台周辺にはツツジ、アジサイ、シラネアオイ等の群落を育て、地域の特色とする
- ・住民協働で美しい景観の保存に取り組み、充実した生活を営んでいく
- ・遊歩道の整備やコースを作り、健康増進のために活用する

事業内容

- ・シラネアオイ園遊歩道整備事業
シラネアオイ植栽地の遊歩道を整備
(幅 1.2m～2.0m、総延長 227m) の造成
- ・植栽
展望台に山アジサイ 30 株を植栽
村有地を借用してシラネアオイ 800 株を植栽



【 遊歩道作業中 】

事業効果

- ・シラネアオイ園遊歩道整備事業
勾配が急な個所に階段を設置したり散策に十分な道幅を確保することで、不慣れな方でも安全に山歩きを楽しめる環境を整えることができた。
- ・植栽
5年前から植えて来たシラネアオイも約 2000 株になり、量的にも多くの方々に楽しんでもらえる状態となった。今後も継続した植栽を実施し、将来は 2～3 万株位までに増やしていきたい。

このほか、どんぐり村の紹介のチラシ配布をすることにより、多くの方に展望台を知っていただくことができ、また、訪れていただくことができ誘客につながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・会員の高齢化が課題となっており、今までも行っていた交流会（トレッキング、お月見会、日帰り旅行、もちつき会）等の充実と新たな事業の計画、若い会員の参加を積極的に進めてまいりたい。
- ・山野草を継続して養育植栽していく事で地元の観光にも貢献できるようにしていきたい。
- ・チラシ配布を積極的に行い、地域(どんぐり地区)の知名度アップに貢献していきたい。

【選定のポイント】

白馬三山の景観を楽しめるドングリ地区北稜の山中において、遊歩道の整備や展望台での山野草の植栽等を実施。遊歩道や展望台を健康増進や親睦の場として活用されるとともに、植栽等の環境整備の継続により、山歩きを楽しむ方が集うスポットとして発展することが期待される。

団体名	どんぐりを元気にする会（白馬村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	稲垣 文夫 0 2 6 1 - 7 2 - 5 5 6 7	事業費	5 9 1, 0 4 0 円
Mail	gaku_tonbo@yahoo.co.jp	支援金額	4 4 1, 0 0 0 円

里山公園化を目指した無理のない持続可能な 里山保全の仕組みと交流の場づくり

取組に至る背景・事業の目的

飯山市の小境地区近隣の里山は、人の手が入らなくなり荒れた部分が多く見られる。里山が荒れると「森林や田畑が持つ水源涵養、土砂流出防備などの公益的機能が低下」し、また「奥山の獣が里に下りて田畑を荒らす」、「里山が荒れることにより人の足が遠のき、さらに荒れていく」という悪循環となる。

里山に労働力を投入したり、ある程度の経済的な価値を付与したりできれば、これらの問題を解決することができる。「里山公園化をめざす」という地区内外の人々が参画しやすい目標を掲げ、新しい手法を用いて無理の無い里山保全の仕組みづくりと、特に外部の人の手を借りながら里山の再生を進めることによって都市農村交流を推進する。

事業内容

- 実力をつける田んぼづくり（棚田の保全）
農家の方の指導を得て、田植えや稲刈りの他、草刈りや水の管理などの日常的な作業を行うとともに、収穫祭などを行い、参加者同士や地元と都市の交流を行った。
- 交流イベント、ワークショップの開催
棚田の保全のための取組のほか、刈払機の安全衛生教育、里山暮らし研修などを実施した。
- 間伐材の利用促進
丸太に十字の切り込みを入れ、明かりや熱源となるログファイヤーを製作した。
- 活動拠点の整備
間伐材の利用促進、6次産業化（ログファイヤー等製作販売）のための建物を整備した。



【刈払機 安全衛生教育 講習風景】

事業効果

- ①里山の保全
耕作者が減り荒廃がすすむ棚田を、1人が1枚を担当して責任を持って管理し保全に努め、不耕地地の増加防止に寄与できた。
- ②交流人口の増加
棚田保全に関するイベント（田植え、草刈り、稲刈り）、刈払機の安全衛生教育（1回）、奥信濃いやま里山暮らし研修（春と秋に各1回）の計6回イベントを行い、地区内外から約140名の参加があり、里山を再生しながら交流を深めることができた。
- ③間伐材の利用促進
近隣の杉林を間伐し、その間伐材を使って製作したログファイヤーを、市内の祭りやイベントに寄贈し、好評を得るとともに地元住民にログファイヤーの浸透を図ることができた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

今回の事業で里山保全の仕組みができ、また活動拠点も整備することができた。協力者が楽しく、無理なく携われる環境ができたので、継続して里山保全や交流人口の増加、間伐材の利用促進に係る活動を一層充実して実施できると考えている。

【選定のポイント】

地域の人たちと協力して里山暮らし研修や棚田の保全イベントなどを開催し、里山を活用した地域内外の者との交流を行い、里山の再生と保全を進めることができた。また、ログファイヤーを製作する拠点を整備し、ログファイヤーの販売等を行っていくことにより、間伐材の有効活用が期待される。

団体名 特定非営利活動法人フォレスト工房もくり (飯山市)	事業タイプ ソフト・ハード事業
ホームページ http://mokuri.or.jp/	事業費 4,609,451円
メールアドレス info@mokuri.or.jp	支援金額 2,974,000円

八ヶ岳キッズチャレンジ

取組に至る背景・事業の目的

八ヶ岳は首都圏からのアクセスも良く、初心者から上級者まで多くの登山客が訪れる山域である。「山の日」も施行され、山岳観光への注目が高まっている中で、八ヶ岳の魅力を知ってもらい、家族連れの利用を増やすことを目的として、「八ヶ岳は子どもでも歩けるルートがたくさんあること」「山小屋に宿泊する事で、夕暮れやランプの食事、里を見下ろす朝日が見られること」を体験していただく事業を実施した。

事業内容

全国の小学校児童・園児とその保護者を対象に山小屋への宿泊を伴う八ヶ岳登山を行う「八ヶ岳キッズチャレンジ」を実施

- ・登山道図や親子での登山の魅力に掲載した無料宿泊チケット付き「八ヶ岳アルペンナビ」を全国配布、ホームページ掲載
- ・参加した子どもが作成した「絵日記コンクール」等を実施

平成30年度は、全国の児童・園児への積極的なPRを行い、7月～9月の間、保護者ひとりにつき子ども1名の宿泊（1泊2食）を無料とした。

八ヶ岳登山の思い出を「絵日記」として作画いただき、後日、絵日記コンクールを開催。各年齢区分で選考を行い、入選者には地元名産品等をお送りした。



【絵日記コンクール展示】

事業効果

- ①八ヶ岳山麓の全小学校・保育園にチラシを配布し、八ヶ岳登山を積極的にPRできた。また地元紙やFMでの宣伝も併せて行い、登山未経験の方に直接呼びかけることができた。全国へPRを行うため、「八ヶ岳アルペンナビ」(20万部)にチケットと事業を掲載し、専用ホームページでも情報を掲載したことにより、関西地方や九州地方まで幅広い方にご参加いただいた。
- ②山で出会ったリスや野鳥の様子や、初めて見るキノコ(タマゴタケ)など登山をしたことによる実体験での感動が絵日記に描かれ、保護者の声も非常に好意的であった。平成29年度事業を大きく上回る487名の子どもたちにご参加いただいた。
- ③絵日記入賞者へ地元産品を送り、登山以外のPRにもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

3年間の取組で、八ヶ岳山麓の地元市町村から、県内全域、全国のお子さんと対象を広げ、たくさんのお子さんにご参加いただいた。また、参加したお子さんには、絵日記のほか、独自に考えたゴミ拾いや植物の撮影等の行動に対してプレゼントを贈るなど、豊かな体験の機会となるように工夫し、保護者も含めて非常に好意的な反応をいただくことができた。

この感動をより多くの子どもの経験していただくため、本企画を八ヶ岳の看板事業として、八ヶ岳観光協会独自で実施していくことを予定している。

【選定のポイント】

子どもたちが登山を実体験できる機会を提供し、絵日記コンクールなど工夫した事業の実施により、山岳観光の振興とともに安全登山の啓発に寄与することができた。今後も取組が継続され、八ヶ岳の家族連れの利用増加や、安全登山に向けた啓発に繋がることを期待できる。

団体名	八ヶ岳観光協会（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-4180-9835（柳沢）	事業費	4,121,849円
ホームページ	https://mt-yatsugatake.jp/	支援金額	2,511,000円

別所温泉の魅力を世界に発信するための 外国人集客と受け入れ態勢の整備事業

取組に至る背景・事業の目的

- 訪日外国人観光客数は、平成 19 年の 800 万人から平成 29 年の 2,900 万人と 3.6 倍となっている。県内の主要観光地でも年間 10~20 万人の外国人観光客が訪れているのに対し、別所温泉では平成 29 年度に 800 人程度、伸び率も他の主要観光地と比較して伸びておらず、苦戦を強いられている。
- 各旅館から外国人観光客への対応について意見を集約したところ、町歩きや案内をする外国語の資料やマップがなく、外国人観光客の受け入れ態勢の整備ができていないという状況であった。
- 2020 年には東京オリンピックが開催され、東京から 2 時間程度で来られる別所温泉にも多くの外国人を呼び込める可能性が高い。その前に宣伝や受け入れ態勢を整えることが急務である。
- 別所温泉に外国人を呼び込むとともに、上記の受け入れ態勢の課題を解決するための媒体を作成し活用することで、来訪した外国人の滞在満足度を高め地域を知ってもらいたい。

事業内容

- 英語のマップとパンフレットを作成し、配布した。
- 別所温泉の外国人を受け入れているゲストハウス施設や地図を作成している方、旅行関係の仕事の方、行政関係、デザイナー他、旅館だけでなく多くの業種の方と連携し様々なアイデアを出し合った。
- ライティングや写真撮影は、イギリス人で在日の大学教授であるベンソン氏に実際に別所温泉に滞在してもらい、肌で感じた別所温泉の魅力が伝わるよう、総合的に協力していただいた。



【上：会議の様子 下：ベンソン氏】

事業効果

- 実際に手に取った外国人からは見やすく良い媒体だという意見や、地域の店舗や施設からは英語ができなくてもこれがあれば大変助かるという声をいただいている。
- 媒体の作成だけでなく、実際に外国人の方に宿泊・町歩きしていただいたことでモニターツアーにもなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 冊子は英語で考え英語で作成され、実際の外国人の体験の視点を入れた文章や内容のものができ、地図は切り絵風のデザインを採用し田舎感を出した。外国人が日本人の作成した地図や場所に迷う要因を勘案して、北を誌面の上にすることや、ストリート名をつけることで町歩きがしやすくなるよう工夫し、また耐水性を兼ね備え、携帯性を加味したサイズで作成した。
- 今後は、今回作成したツールをきっかけに多くの外国人が訪れ、地域でのコミュニケーションに活用されていけば地域がより活性化していくと考えられる。また別所温泉や地域を情報発信していくための営業活動や、映像などの違ったツールの整備を進めていく。同時に受け入れに対する意識や外国語での支援などを並行して進めていく。
- 上田地域はインバウンドに後進的な場所であり（年間 1 万人の宿泊者のみ）その中心の温泉街である別所温泉が先頭に立ち行政と連携しながら努めていきたい。

【選定のポイント】

インバウンドに向けて地域で活躍するメンバーをはじめ、広く多業種から参加した協議会を形成して検討を重ねる労を惜しまなかったことにより、単に既存の日本語印刷物を英訳しただけでない外国人目線によるガイドブックという、インバウンド推進に向けた有効なツールを作成できた。

団体名 別所温泉旅館組合（上田市）
 連絡先 0268-38-2020
 メール info@bessho-onsen.com
 ホームページ <http://www.bessho-onsen.com>

事業タイプ ソフト事業
 事業費 1,638,360円
 支援金額 1,228,000円

誰とでも楽しめる観光地域づくり「あなたの手は誰かの翼」

取組に至る背景・事業の目的

諏訪地域、長野県の観光地域のほとんどは山間地であり、障害者や高齢者の利用には不便が多い。坂や段差、不整地などの「物理的障壁」、従業員や介助士、教職員等の意識や慣例などの「社会的障壁」、利用にあつたつての費用負担や受入れ環境整備における事業者負担などの「経済的障壁」。これらの障壁を「人の手」と「アイデア」「ネットワーク」で乗り越え、年齢、障害、出身・居住地域などに関係なく、誰とでも共に楽しむことができる観光地域づくりを行う。

「物理的障壁」低減については富士見高原リゾートが先行して事業を実施。「社会的障壁」の解消を人材づくりや啓蒙活動により図ると共に利用希望者の「経済的」負担を減少できる環境づくりを目指した。

事業内容

- 地域福祉人材を活用したワークショップ
 - ・福祉団体と連携した取り組み
 - ・美術館等屋内施設における取り組み
 - ・屋外空間利用に関する取り組み
 - ・特別支援学校の外出支援に関わる取り組み
 - ・中学校等における人権教育（インクルーシブ教育）
- ユニバーサルフェス（イベント）通した啓蒙活動
 - ・信州大学と連携したプログラムづくり
 - ・障がい当事者と家族がともに楽しめる企画づくり
 - ・イベントを通し、「ユニバーサルツーリズム」に関連して県内に広がる取り組みをまとめたテレビ番組の放送と web 視聴環境の確保



【ユニバーサルフェスの様子】

事業効果

- 「あいサポートフォーラム」「関東甲信越社会教育大会」など啓蒙活動に関する想定を超えた機会を得た。また、長野県地域福祉支援計画の中にユニバーサルツーリズムの要素が取り入れられた。
- 花田養護学校と連携した事業は生徒、教員だけでなく、両親や兄弟もふくめた外出支援、地域人材との交流活動へつなげることが出来た。
- ユニバーサルフェスなどの主な開催地である「富士見高原リゾート」は長野県「福祉のまちづくり県知事表彰」、内閣府「バリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰特命担当大臣奨励賞」を受賞するなど、県内外における山岳高原地域における障害者高齢者を対象とした合理的配慮の実践地として評価された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 当事者、家族、支援者、行政、受入地域共に持続可能な仕組みの構築を図った。
- 山岳高原地域における障害者高齢者を対象とした「合理的配慮の提供」に関する事例の開示、視察の受入れ、他地域へのノウハウ提供。
- 花田養護学校などと連携した地域と障害当事者を繋ぐ取り組みを継続する。
- 障がい者、高齢者を断らない観光、健康長寿プログラムの造成と提供を行う。

【選定のポイント】

観光事業者だけでなく、福祉、教育分野とも連携し、県内でユニバーサルツーリズムに対応した観光地づくりの促進が期待される。

団体名	ユニバーサルフィールドづくり実行委員会（富士見町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0 2 6 6 - 6 6 - 2 1 2 1（担当：藤田）	事業費	3, 3 1 1, 2 3 1 円
		支援金額	2, 6 4 8, 0 0 0 円

駒ヶ根大使村プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

駒ヶ根市においては、世界を感じる国際交流イベント「みなこいワールドフェスタ」を毎年実施し、国際交流を柱とした交流人口の増加が継続的に進んでいる。また、2014年度からの10年間の第4次総合計画に「大使村構想」を位置づけ、世界各国の文化発信の場を目指している。

一方で、市内の商店街においては経営者の高齢化が進み、以前に比べて活気が減りつつあり、利用人口・交流人口の減少という課題が挙げられている。

リニア中央新幹線の開業を見据え、国内外へ上伊那地域の魅力を発信するとともに、JICA訓練所、JOCA本部と連携する中で、商店や学校、市民団体等と駒ヶ根市のような国際化を進める地方都市との交流に関心のある各国大使館との交流機会を提供することにより、国際色豊かなまちづくりと市内商店街の活性化を図る。

事業内容

- キックオフイベント「こまがね大使村まつり」の開催
毎月、駒ヶ根銀座商店街で開催される「子育て地蔵尊すくすく縁日」に合わせて開催。3か国からは駐日大使が、6か国からは駐日大使館職員が参加。通常の縁日に加えて、参加大使館国を紹介するブースを出展。大使館の出展に際しては、その国の青年海外協力隊派遣経験者に通訳等のサポートを依頼。このイベントを契機として、今後、市民と大使館との継続的な交流を促す。
- 講演会「笑って学ぶSDGs」の開催
市民の国際協力に対する理解を促進することを目的に開催。110名が参加。カードゲームやワークショップを通じて、SDGsに対する理解を深めた。



【こまがね大使村まつり】

事業効果

- こまがね大使村まつり
地域の縁日と合わせて開催することで、国際交流の経験がない層の参加もあり、参加した各国大使館関係者(34人)と市民との交流が図られた(参加者数1500人)。また、大使館関係者や県外から訪れた青年海外協力隊経験者にも国際色豊かなまち駒ヶ根をアピールすることができた。
- 笑って学ぶSDGs
カードゲームやワークショップを通じ楽しくわかりやすくSDGsや国際協力に対する理解を深めることができた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

駐日大使館とのパイプを持つ青年海外協力協会(JOCA)が窓口となり、大使館との調整を進めた。イベントを地元の縁日と同時開催することで、これまで国際交流に縁のなかった市民に大勢参加いただくことができた。しかしながら、プロジェクト開始初年度と言うこともあり、目的の一つである年間を通しての交流の実績にまでは至らなかった。来年度以降は継続的な交流につながるよう、プロジェクトを広く周知し、国際交流に関心のある団体等に積極的に働きかけを行っていく。

【選定のポイント】

地元の地域づくり団体と行政、JOCA、JICAが一体となって取り組んだ事業であり、イベントには1500人が参加するなど国際交流、にぎわい創出など様々な活動の輪が広がり地域のPRにもつながった。今後の事業の継続・発展が期待される。

団体名	駒ヶ根国際交流事業実行委員会 (駒ヶ根市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	駒ヶ根市企画振興課 0265-83-2111	事業費	3,340,219円
		支援金額	2,652,000円

グリーンシーズン自転車観光誘客事業

取組に至る背景・事業の目的

近年、国内外ではサイクルツーリズムが盛んになっており、北アルプス地域においても「アルプスあづみのセンチュリーライド」などの大会が開催され、毎年大勢のサイクリストに参加していただいている。そんな状況の中、大町市でのサイクリストをお迎えするための環境といえばサイクルステーションが5カ所であり、白馬村や小谷村が活用しているサイクリスト向けのコースマップもないという状況であった。また、レンタサイクルを利用したいというお客様に対し、多様なニーズに対応できる電動式自転車（E-BIKE）の準備が必要と考えた。

自転車観光を今後の北アルプス山麓の観光誘客を加速させるきっかけの一つとしてとらえ、『自転車旅行者に優しい環境づくり』を目的に本事業を実施した。

事業内容

- バイクラック設置の設営 30ヶ所
- サイクルステーション（タペストリー）の設営 30ヶ所
- 大町市サイクリングマップの作成
- サイクリングツアーの実施
- サイクルイベント動画の制作
- E-BIKEのレンタル実施



【設営したサイクルステーション】

事業効果

- ・バイクラックの設置により、気軽に駐輪できる環境が整った。また、本事業を参考にして自発的にバイクラックを設置する取組もあり、活動の輪が広がった。
- ・サイクリングマップは、地元サイクリストが中心となり4ルートを設定し作成。初心者に分かりやすく、観光目的でも使用できる内容は大変好評だった。
- ・ガイド付き観光サイクリングツアーを実施。5コースで実施し20名の参加者から好評を得た。
- ・制作したサイクルイベントの動画は、観光スポットの紹介もしており、市観光協会のホームページや日本最大のサイクルイベント「サイクルモードインターナショナル」での放映を通じてサイクリングエリアとしての魅力に加え、観光エリアとしての魅力も伝えることができた。
- ・2台のE-BIKEを購入しレンタサイクルとして活用したことにより、観光客の行動エリアが郊外の観光地にまで広がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・E-BIKEのレンタルを開始したことで、利用者の行動エリアが広がりをみせている。この流れが定着するよう、情報発信を継続し、E-BIKEが観光客の周遊の足として選択されるよう努めたい。
- ・また、北アルプスの絶景を求めて大町市を訪れるサイクリストや観光客にレンタサイクルを利用してもらえるようサイクルステーションの整備等の環境づくりに取り組みたい。
- ・さらに、取組が安定し継続できるよう、活動資金の確保等について検討を図りたい。

【選定のポイント】

地域のサイクルツーリズム推進のため、30カ所のサイクルステーション整備、サイクリングルートマップ作成と設定ルートでのサイクリングツアー等を実施。北アルプスの景観、仁科三湖や鷹狩山などの地域資源を生かした取組である。

団体名	大町市観光協会（大町市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0261-22-0190	事業費	2,136,014円
ホームページ	http://www.kanko-omachi.gr.jp/	支援金額	1,659,000円

池田町の眺望を活かしたマウンテンバイクコースの整備

取組に至る背景・事業の目的

池田町では、サイクリングブーム以前より町民有志のサークル活動として、山間の赤線道などを利用したマウンテンバイクコースを設営し、各々が自由にトレイルを楽しんできた。

コース整備は、町観光推進本部も連携し、地権者や地域住民との合意形成などに携わり円滑な活動を支援してきた。

営利目的でない住民主体のコース整備活動や独自のイベント開催などにより徐々に注目度を増し、大手自転車メーカーのWebサイトで特集が組まれるまでになった。

注目度が増し町外からの利用者の増加に伴い、マナーを守れない方も散見されるようになり、地域とのトラブルやコースの保全が危惧されるようになった。

このような背景のもと、子どもたちにマウンテンバイクに親しんでもらうとともに運動離れが解消できるよう平坦部に安全に利用できるコース新設と既存のコース整備等を行った。

事業内容

①既存コースを含むコース整備

マイカーで来訪される利用者が容易に利用できるよう、大型駐車場を有するあづみ野池田クラフトパークを起点とする既存コースへ接続するコースを拡充。

②ビギナー・未成年対象のコース新設

街中からほど近い高瀬川河川敷内にトレイルコース及びポンプトラックコースを新設。

③トレイルマップの作成

全コースのデータやコースレイアウトを付し、来訪者の利用が想定される飲食店などの紹介を掲載したマップを作成。

④注意喚起・コース案内サインボードの設置

コースの一部が車道やウオーキング道と重複している為通行の安全確保、走行中のマナーなどを示した注意喚起のボードを要所に設置し、円滑なコース運営を実施。



【拡充したコースを疾走するライダー】

事業効果

本事業に併せ、テレビCMのロケ地に登用されたことから、「池田町に本格的な良いコースがある。」と口コミで広がり、コースやトレイルマップの問い合わせが県内外から頻繁に寄せられ、来訪者も曜日問わずコンスタントに訪れるようになった。

また、週末には子ども連れのファミリー層などが高瀬川河川敷のポンプトラックで終日過ごす様子も見受けられるようになり、これらのコースが若年層の池田町来訪の動機付けになっている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

池田町の「観光まちづくり」構想の一つの項目に、「住民がこの町を誇れ、住民が主役となって躍動できる場面の創造」があり、それに沿って池田町観光推進本部では、池田町マウンテンバイククラブの活動に過剰に干渉せず、必要となる事案が起こった際に支援を行うスタンスで関わり、クラブに主体性を持ってもらうことで活動の充実が図れているものとする。

当町の東山低山帯に縦横無尽に展開しているコースなので、アクシデント等への対応についてクラブと池田町観光推進本部の立ち位置・責任の所在をしっかりと棲み分けする必要がある。

【選定のポイント】

町の東山のマウンテンバイクコースの看板整備や初心者向けコースの設営、コースマップ作成を実施。コースでは大手家電メーカーのPR動画撮影が行われるなど、MTBをきっかけに池田町は注目を集めており、新たな誘客ツールとして発展することが期待される。

団体名	池田町観光推進本部（池田町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	事務局 片瀬 0261-62-9197 Ike-kan@ikedakanko.jp	事業費	1,178,053円
		支援金額	865,000円

NAGANO善光寺よさこい

取組に至る背景・事業の目的

中心市街地の賑わいの創出、観光誘客による地域活性化を図るため、平成 27 年度から開催している「NAGANO善光寺よさこい」。

この事業により、長野の魅力を県内外、全国へと発信し、新たな観光イベントを長野に定着させることを目的とし、現在も継続して実施している。

事業内容

全国から集まった参加チームが、工夫を凝らしたオリジナル演舞を舞い、コンテスト方式で審査するとともに、「NAGANO善光寺よさこいオリジナル演舞」を参加者全員で舞う。

よさこいを通じた長野の新たな魅力の発信と、全国各地のよさこい愛好者との交流を図るため、平成 30 年度は下記日程で事業を実施した。

他に、能登よさこい、安曇野よさこい等へも参加したほか、NAGANO善光寺よさこいの当日に撮影した写真のコンテストを実施。応募は 161 点、入賞作品は 3 箇所で開催され多くの方に PR した。



【写真コンテスト 最優秀賞作品】
「観衆の声援を受けて」

- 日時：平成 30 年 5 月 4 日（金・祝） 10 時から 16 時まで
（歩行者天国は 9 時から 17 時まで）
- 会場：善光寺表参道（中央通り）、長野駅前広場
- 参加：県内外から一般 20 チーム、ジュニア 2 チーム、計 22 チーム 374 人の参加
- 演舞：舞台を 3 箇所に分け、それぞれの舞台を各チームが順に回って複数回演舞。計 78 回の演舞が披露された。また、全員で行う「NAGANO善光寺よさこいオリジナル演舞」（総踊り）を 7 回、全国からの参加チームの各地域オリジナル総踊りを 12 回、合計して 97 回の演舞を実施
- 善光寺前での演舞：一般上位 3 チーム、ジュニア 1 チームが演舞
- 運営に関わった地域スタッフ：103 名
- 他イベントとの協力：善光寺花回廊、表参道芸術音楽祭（長野市）、14 丁目広場

事業効果

例年、地域の協力を得ているが、地元商店会や高校生、地元住民などから昨年を大幅に上回る 103 名のスタッフに参加していただき、GWの一大イベントとして定着してきた。

参加チームも昨年の 19 チームから 22 チームに増え、地元小学校にはよさこいクラブが結成されるなど、地域ぐるみでの取組となっている。

他のよさこいイベントにも積極的に参加し、善光寺よさこいの発信、PR や、地域交流が図られるなどそれぞれの地域での盛り上がり貢献し交流の輪が広がりつつある。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

参加チームも 3 チーム増え、よさこいチーム同士の交流も深まってきた。H30 年度は、能登よさこい、安曇野よさこいに参加させていただき、善光寺よさこい「切り火」を披露したほか、善光寺よさこいの PR を行うことができた。今後も積極的に他のよさこいイベントとの連携・協力を行っていく。

【選定のポイント】

地元商店街を中心に、住民が協力してよさこいイベントを実施することで、長野の魅力や賑わいを参加した全国からのチームを通じて県外に広く PR できた。地元の小学生、高校生、商店会等、地元住民が参加するなど幅広く地域間・世代間交流が促進され地域活性化が図られた。

団体名 NAGANO 善光寺よさこい実行委員会（長野市） 連絡先 026-228-0294 HP http://nagano-zenkouji-yosakoi.jimdo.com E-mail zenkoi@mx1.avis.ne.jp	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px 5px;">ソフト・ハード事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">事業費</td> <td style="padding: 2px 5px;">2,974,412円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px 5px;">1,485,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト・ハード事業	事業費	2,974,412円	支援金額	1,485,000円
事業タイプ	ソフト・ハード事業						
事業費	2,974,412円						
支援金額	1,485,000円						

第3回クラフトフェア北竜湖開催事業

取組に至る背景・事業の目的

飯山の北竜湖並びに小菅エリアは、歴史と文化と風光明媚な観光拠点である。その認知性を向上させることを目的に実施したこのクラフトフェアは、過去2年間の来場者が3,000名から4,000名へと増加を続けている。継続とロコミは、その認知性を向上させることから、北竜湖へ行って楽しかったと印象を残せるフェアを開催し、このエリアへの年間を通じて安定した観光客の増を目指す。

事業内容

- 開催日 2018年10月6日、7日
- 場所 飯山 文化北竜湖全館、北竜湖畔
- 内容
 - ・様々なジャンルのクラフト作家による出展
 - ・子どもを対象とした木工細工のワークショップ
 - ・飯山伝統工芸展として蒔絵、和紙、彫金作家の出展
 - ・多数の料理のフードコート
 - ・文化学園大学生の9ブースによるクラフト出店
 - ・下高井農林高校生徒のそば打ち実演と飲食
 - ・下高井農林高校生徒・教諭による箸づくり体験コーナー
 - ・Instagram ハートコンテストでの写真の投稿募集 他



【第3回クラフトフェア北竜湖】

事業効果

- 出展店数103店、出展飲食店数17点となり、出展クラフト作家、飲食店舗が昨年比148%。
- 来場者数が4,500名を超え、昨年比113%となった。特に子供連れの家族の来場が昨年比120%となり、アンケート結果では、楽しい一日を過ごせたとの意見が多数あった。
- 「Instagram ハートコンテスト」は、北竜湖の形がハート型であることにちなんで、インスタグラムを活用しハートをテーマとした写真の投稿を募集。約300点の応募の中から優秀賞を表彰し、地域の情報発信につなげた。
- 地元の高校生のそば打ちの実演や、県外の大学生による工夫が多用されたクラフト品など若い世代の出展は、来場者から好印象が多数寄せられた。
- 子どもを対象としたワークショップなど、親子がともに体験して楽しめる内容を実施し、良い評価が寄せられた。親子で楽しめるクラフトフェアが実現できた。
- 多数の来場者を安全に誘導するため、移住者のボランティアや近隣住民の支援による交通整理、誘導が成果を結び、無事故で楽しい展示会が実施できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

開催目的であった特色ある観光地づくり及び地域協働の推進が的確に実施できた。年に一回の開催ではあるが、長野県内外の広いエリアからの来場者が、北竜湖、小菅エリアの自然豊かな施設を体験し、その中で一日楽しく買い物、体験、飲食を楽しんで行かれたことで、今後の当地域の認知度が間違いなく向上し、観光地としての認知度も向上したと認識する。
今後の安定した開催を継続することが重要だと考える。

【選定のポイント】

イベント開催を重ねるごとに、出店者、来場者ともに順調に増加しており、観光地としての認知度向上に貢献するとともに、地域のイベントとして確実に定着してきている。また、クラフト作家や県外大学の学生等にとっては成果を発表する場、来場者にとっては様々な作家との交流や体験ができる場となっており、今後さらなる参加者の拡大、観光地としての魅力向上が期待される。

団体名 北竜湖観光協会（飯山市）	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0269-65-3121	事業費 2,087,018円
ホームページ https://www.bunkahokuryukan.com/	支援金額 1,420,000円

よこね田んぼ観光地化事業

取組に至る背景・事業の目的

棚田百選認定の飯田市千代よこね田んぼは、四季折々に色を変え、昔の懐かしい田園風景を今に伝える貴重な棚田で、千代地区の財産、飯田市の資源として県内外から写真愛好家や観光客が訪れている。

- 1 平成 28 年度に棚田を正面に望む高台へ見晴台(展望台)を設置し、棚田ビューポイントとして観光客を案内しているが、棚田より直接登れる道がなく、1 km 程回り道をする必要があり、観光客、地元住民から遊歩道の整備を希望する声が多く上がっている。
- 2 見晴台まで遠く、歩くことが困難であるために観光への活用ができていない。
上記の課題を早期に解消し、農作業体験の参加者や観光客の満足度を上げ、利用者の拡大と観光地としての魅力の向上と地域の活性化を図りたい。
- 3 『信州ふるさとの見える丘』に平成 30 年 2 月 28 日に認定を受けた『棚田百選 千代よこね田んぼ 見晴らし山』への取り付け道路にもなり、来訪者の満足度を上げ、リピーターや観光客の増加が期待できる。

事業内容

- 1 遊歩道の整備
展望台(棚田百選 千代よこね田んぼ見晴らし山)までの遊歩道の整備。
- 2 よこね田んぼ保全委員会発足 20 周年記念事業
遊歩道の開設にあわせて、田んぼ周辺のウォーキングマップの作成。稲刈りイベント時に開通イベントとドローン記念撮影。また、ランナーズヴィレッジのコースとして設定。
- 3 地域住民との共同作業
(1)大量の伐採木が出る為地域住民や地権者、保全委員会で協力して搬出作業を実施し、薪や丸太階段、手すりなどに利用する。
(2)保全委員を中心にガイドの養成を実施、各種視察、研修、見学の見学や観光案内を行う。



【稲刈り体験イベント・ドローン撮影】

- 4 商品の開発や販売の拡大
集客増加を見込み、よこねのグッズ、米、米製品、酒などの販売体制づくりを進めながら、収益を上げられる組織の構築を目指し、地域住民主体の独立組織づくりにつなげる。

事業効果

- 1 棚田の景観向上
展望台の設置、遊歩道の整備に伴い支障木が相当量伐採でき、景観と田んぼへの陽当たりが大きく改善された。また、伐採木を丸太階段に利用したことで景観に配慮でき、自然景観を保てた。
- 2 地域資源への愛着心醸成、環境保全への機運醸成
観光ツアーや農作業体験等の各種イベントは、都市間交流・世代間交流の場となり、ふるさとへの愛着心とともに観光受入れへの機運醸成の機会となっている。
- 3 よこね田んぼ・よこね米、よこね米製品のブランド化
・米が飯田市役所窓口婚姻、出生届提出記念品として使われる。飯田女子短大と同市内洋菓子店で米粉を使用したクッキーの開発、販売がされた。地元喜久水酒造との 2 年目の醸造に取り掛かる。
・県知事ランチミーティングの会場にも選ばれた。『NPO 法人里山ベース』の設立に結びついた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・展望台、遊歩道の設置や工事に際しては地権者の快諾によりスムーズに事業が遂行した。整備後の維持管理については地元シルバーボランティアグループからの申し出を受けている。
- ・遊歩道整備後、地区住民の散歩コースや、保育園親子遠足での活用の他、地区外住民も車で訪れ、ウォーキングコースとして活用している。
- ・近年の天候不順と棚田の排水機能の低下で沼田になってしまうため排水設備の改良が急務である。
- ・棚田オーナーを含めた集客に向けては、管理が難しいバイオマストイレの改良と、更衣室やシャワー設備の設置が必要である。また駐車場、駐車スペースの確保、整備が課題である。

【選定のポイント】

ビュースポット整備によりよこね田んぼを基点とした観光客の増加が期待できるほか、よこね田んぼを中心とした地域活性化を目的とする NPO 法人が新設されたことと連動し、観光収益による保全活動の活性化も期待される。

団体名	よこね田んぼ保全委員会 (飯田市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0265-59-2003	事業費	2,473,200円
メールアドレス	chiyo@city.iida.lg.jp	支援金額	1,648,000円

新規狩猟者確保事業

取組に至る背景・事業の目的

背景・課題

- ・農林業被害が県下トップ（3億円以上）
- ・有害鳥獣捕獲を行う銃所持者の減少予測（平成30年 400人から令和10年 150人へ）
- ・女性の参加が極めて少ない（現在 女性会員の銃所持者 380人中6人）
- ・射撃場に女性用トイレが無いため、女性が気楽に参加するには厳しい状況。

目的 新規狩猟者確保イベント等を実施し、若者や女性会員確保。
農林業被害減少のための「捕獲従事者」維持。

事業内容

- 1 平成30年11月10日 飯田国際射撃場において新規狩猟者確保講座を実施。飯伊連合猟友会の内部組織で若手会員有志者の「南信州 hunter's」による同世代や今まで興味があったが始められるか悩んでいた人、また特に女性でも狩猟、射撃が可能というところをPRするための内容。
- 2 中川村で狩猟、ジビエ、射撃と幅広く活躍している女性猟師の講演。
- 3 一般者は普段見ることができないクレー射撃見学。
- 4 猟師（猟銃所持者）に必要な猟犬とのふれあい。
- 5 猟師が鹿を捕獲した後、どのように解体、食しているかの体験（レストラン等で提供しているおしゃれな食べ方ではなく、猟師飯を説明、試食）。
- 6 猟銃を所持するにはまだ躊躇してしまうが、比較的簡単に始められるわな免許を取得する人が最近が多いため、効率的に捕獲する設置方法を説明、希望者には体験してもらった。
- 7 募集は各新聞、フリーペーパー、SNS等を利用。
- 8 今後多くの女性に活躍してもらうため、女性トイレ設置。今ある既存のトイレに増設。横1.8m、縦1.5m、高さ2.5m。



【新規狩猟者確保講座
わな設置体験】

事業効果

- 1 普段、射撃や狩猟、ジビエに興味を持っているが、実際どう始めたら良いかわからず悩んでいた人たちが初心者対象の講座参加で一步踏み出せる状態になった。
- 2 狩猟や射撃は男性がするものと思われがちだが、講座に女性参加者が多かったことで、受け入れ側が女性に配慮した環境（女性専用トイレ等）を整備すればもっと猟友会への参加を呼び掛けることが可能であることがわかった。女性の猟銃所持者が6人（H30年度）から12人（R1年度）へと倍増する予定である。
- 3 一般者対象の講座を開催したことで世間に対して猟友会の活動を知ってもらえた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

趣味が多様化する中、若者、女性が狩猟や射撃に興味を持つイベントにするための内容を考えるのに苦労した。

- 1 引き続き新規狩猟者確保講座を年一回開催する。特に一般者で希望の多い解体について、今後のジビエ普及のためにも安全、衛生的な解体の仕方を研修。またジビエに精力的に取り組んでいる下伊那農業高校アグリ研究班とのコラボも検討中。
- 2 狩猟免許取得後、射撃については南信州 hunter's 内に公安委員指定の射撃指導員が、わな仕掛け方や解体等も南信州 hunter's で新規のフォローをしていく。
- 3 射撃場は射撃はもちろんのこと狩猟関係の講座、講習会を開催するのにも打って付けの場所であるため、女性専用トイレを設置したことで、性別問わず幅広く呼びかけをしたい。
- 4 ただ会員数を増やすことだけを目的とせず、射撃や狩猟は危険が付き物ということを、特に女性に対しては指導を徹底したい

【選定のポイント】

狩猟講座をメディアで広く募集したことにより、これまで狩猟に関心がなかった方や射撃場の存在を知らなかった方の参加もあり、講座受講者のみならず、地域に広く猟友会の活動を知ってもらうきっかけとなった。

団体名	飯伊連合猟友会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0265-53-0423	事業費	2,239,170円
メール	hanirengou-ryouyuukai@brown.plala.or.jp	支援金額	1,492,000円

安曇野産ホップ生産と麦芽栽培による遊休荒廃農地活用事業

取組に至る背景・事業の目的

農業従事者の減少等を要因とする遊休荒廃農地解消策と、生産会員を増やしつつ生産者の育成を目的とし、過去に安曇野で栽培されていたホップを新たな地域資源として栽培することで、栽培復活地産化の取り組みを目指し、またビールの素材となる二条大麦の生産試験を実施した結果、この地でも生育できることが確認できたため、関係者による連携を深め、生産技術の取得に努めた。

事業内容

- 遊休荒廃農地解消策と生産会員増加を目指し、ホップの生産向上を目指すため圃場の追加基盤整備を進め、並行し二条大麦の麦芽加工も行い、地ビール祭りや、ホップ収穫祭を試みた。
- ・収穫作業視察（8月下旬：岩手県遠野市）
- ・ホップ棚追加補強工事（12月下旬～H31年1月）
- ・募集による収穫体験会の開催（約10名参加）
- ・地ビール祭りの開催（約500名）



【安曇野ホップ収穫体験】

事業効果

- 3年目となり、ホップの苗も株分けが行えるほど成長し、収穫85kg、うち生約10kgを除き、乾燥約18kgまで増やせた。3年目の目標である乾燥10kgも達成でき、さらなる生産技術の向上と持続的な事業体制や基盤整備を進める。
- 二条大麦は、栽培面積を拡大し、約1.5tの収穫量を上げた。今後は、麦芽加工精度を向上させ、新たな販路開拓と効率的な加工作業の構築に努める。
- イベントは前年よりも約200名増え、駅からのバスの運行も試みた。また、参加募集型で収穫体験を試み、10名の参加があり、大変好評であった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ホップの生育も順調になったことから、作業効率の向上が重要になってくる。また会員だけでなく、これまで構築できた関係者との連携も強化し、共感する仲間を増やしていきたい。
- 地域資源の価値を認識し、新たな事業者とも連携することで、収穫増から遊休荒廃農地の利活用が進むため、新たな資源の認知拡大を行っていきたい。

【選定のポイント】

遊休荒廃農地解消策として取り組んで来た二条大麦の生産技術向上の結果、収穫量が目標値を上回り取り組みの効果も見られた。更なる規模拡大により、ブランド強化、地域活性化、担い手育成等が期待できる。

団体名	安曇野産ホップを生産する会 (安曇野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	会長 斉藤 彰久 0263-71-1560	事業費	1,061,929円
		支援金額	797,000円

おみごと農業研修推進事業

取組に至る背景・事業の目的

高齢化による担い手不足、農地の遊休荒廃化が進む麻績村において、都市部から村へ移住した農業を学ぶ志のある地域おこし協力隊を農業研修生として受け入れ、以下の事業を行うことで、麻績村における農業振興と次世代の担い手育成を推進する。

事業内容

- ブランド化・商品化事業
昨年醸造したりんごワイン・シードルの試飲会の実施、糖度測定器の導入により、高品質な商品を提供できる体制を整えた。
- 販売研修事業
都市圏での物産展等イベントに参加し、販売しながら村のPRを行うとともに販売の方法について学んだ。
- 交流事業
村内イベントへの積極参加や農業体験ツアー実施など、地域や都市との交流を推進した。



【農業研修の様子】

事業効果

- 遊休荒廃農地の有効活用による農業振興
 - ・りんご栽培面積の拡大により、遊休荒廃農地の農地再生面積を 3.4 h a → 4.3 h a まで拡大。当初計画 (3.9 h a) を上回る数値を達成した。
 - ・既存農作物を活用した新たな商品を周知することで、村内における農作物の加工方法について新たな提案を行うことができた。
 - ・収穫作物を選別し、商品価値を高める環境を整えることができた。
- 農業研修を通じた次世代の担い手育成
 - ・農業研修生5名が、育成・管理等の栽培技術から販売、農業経営の基礎まで、農業に関する様々な技能・知識を習得。
 - ・物産イベントや農業体験ツアー等を村民との協力により実施し、地域との結びつきが強まり、就農・定住するための協力関係を築くことができた。
 - ・農業研修生自身が指導を経験することにより、知識の確認、定着を図ることができた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

本事業の内容を充実させつつ、更なる農地の有効活用と生産拡大、農産物のブランド力強化及び都市交流による地域活性化を実現し、次世代の担い手を育成していくため、事業を継続・拡大させていきたい。

【選定のポイント】

地域おこし協力隊のスキームを活用し、遊休荒廃農地の農地再生面積の拡大や次世代の担い手育成につながっている。今後の地域活性化に向けた事業の発展・充実に期待する。

団体名	特定非営利活動法人おみごと (麻績村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	江森 修一 0263-50-6150 npoomigoto@grace.ocn.ne.jp	事業費	1,487,625円
		支援金額	1,173,000円

北斗の拳「御酒飲ラリー」^{ごしゅいん} 広域ファン集客事業

取組に至る背景・事業の目的

佐久市出身の原作者 武論尊氏の協力による「北斗の拳」のブランドを活かした佐久市のPR事業にあわせ、「北斗の拳」とコラボレーションした事業を実施することで、新たな客層の需要を掘りおこし、地域外からの交流人口の創出を図ることで、地場産業の振興、飲食業の活性化、改めて地酒の美味しさを知る機会とすることを目的にした。

事業内容

《北斗の拳×御酒飲ラリー》

内 容：飲食店で地酒を飲むと、御酒飲帳と御酒印、
お店からの特典がもらえ、御酒印を集める
事で景品（北斗の拳デザインの酒樹【7枚】
と北斗の拳ラベルの地酒【15枚】）が貰える。

実施期間：11月1日(木)～2月22日(金)

参加酒蔵：佐久地域15醸造会社

参加店舗：67店 (H29年対+22店)

プレス発表：10月29日(月)17社取材・報道



【多くのメディアが集まったプレス発表】

事業効果

- ・景品の酒樹は388個、地酒は226本交換することとなった。最低4,524杯のお酒が飲食店で提供され、飲食業の活性化に繋がった。
- ・御酒印15枚(コンプリート)の方を対象にしたアンケート結果では、飲食店で取扱いしているお酒のラインナップを組み合わせ、平均3.7店を回って集めたという結果となった。(117名が合計433店を回った。)
- ・酒販と飲食店で新たな地酒の契約等商取引が生れた。
- ・コンプリートした人のうち、約1/4は地域外からの参加者であり、地酒を広く情報発信・PRに繋がった。
- ・TV局5社、新聞社7社、ラジオ局3社、その他2社など多くのメディアの取材(2社は更に追加取材)があり、放送・掲載され、メディアを通じたPRができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

飲食業者、酒造業者、酒販業者の集まる合同会議のもと、閑散期の誘客効果も考慮した実施期間とし、地域の3商工会と連携しながら広く参加飲食店を募集するとともに、各飲食店の取扱銘柄数が公平となるよう調整を計った。

本事業を、長野県飲食業生活衛生同業組合・長野県酒造組合・長野県小売酒販組合連合会等と連携し、県下での取組として広げていくことで、他県にない長野県だけの魅力を打出す事ができる。海外の日本酒ブームもありインバウンド需要が創出されることによる域外マネーの獲得、日本酒やクラフトビール、ワインなど全国へ向けた発信による知名度アップにつなげる。

【選定のポイント】

地元出身原作者の漫画作品とのコラボレーションにより、県外客を含む多様な客層への佐久地域産の地酒等のPRができ、地域産品の振興、観光振興に寄与した。この事業を契機とした酒類の新たな流通が生まれており、今後の産業振興に繋がることが期待できる。

団体名	佐久商工会議所(佐久市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-62-2520	事業費	2,482,125円
ホームページ	https://www.sakucci.or.jp/	支援金額	1,902,000円

高校生と地元企業を「つなぐ」事業

取組に至る背景・事業の目的

飯田下伊那地域では、高校を卒業した学生の約7割が進学し、高卒地元就職者と大卒等のUターン就職者を合わせた地元回帰定着率は、卒業者全体の4割程度とされている。恒常的な地域産業の担い手不足を改善し、若者の地元への回帰定着率を向上させるには、高校卒業までに地域企業に対する認知を高めることが重要と考える。

当事業は、高校生のやりたいこと、興味のあることを企業が応援する形で、学生と地域の企業との関係性を深め、地域企業が将来の就業選択のひとつとなることを目的としている。

事業内容

参画企業の応募にあたり、地域内企業向けに当事業の説明会を開催し、応募いただいた全ての企業と意見交換を行い「高校生がやりたいことを応援する」という事業の趣旨を十分理解いただいたうえで16企業の参画を得た。

高校生を対象とした事業プログラムは「フリースペース型」と「テーマ設定型」に大別される。

① フリースペース型

企業の会議室等を開放し、高校生が自由に利用できる空間を提供した。地域内7か所で実施 利用登録者数219人

② テーマ設定型

企業の強みを生かしたテーマを設定して事業を実施し、高校生の参加を募った。

事業の例

「旭松カフェ（スイーツ試食会&企業説明会）」7/14開催 参加高校生13人

「女子高の料理クラブへ講師として料理教室を実施」10/26開催 参加高校生21人

「画像検査装置の共同研究（Omron Technical School）夏休み」8月～9月開催 参加高校生3人

「画像検査装置の共同研究（Omron Technical School）春休み」3/25～3/29開催 参加高校生2人

「スマホアプリのプログラミング教室」9/29開催 参加高校生3人

「ボランティア体験ツアー～東京ディズニーランドで一緒に楽しもう！～」11/3開催 参加高校生8人



【旭松カフェの様子】

事業効果

- ・当初、8社の参画企業を想定していたが、予想以上に反響があり、16社の参画企業の協力が得られた。
- ・当事業をきっかけに高校の学習活動を企業が支援する事例が派生的に生まれ、地元企業と高校のつながりが広がりを見せている。
- ・当事業に参加した高校生が実施企業への就業につながる事例があり、将来の就職に向けて、高校生が地元の企業を深く知る機会となっている。
- ・高校生との交流が参画企業にとって刺激となり、学生に魅力的な職場環境づくりを考える雰囲気が会社内に醸成される効果があった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

参加した高校生との継続的な交流など、得られた成果は企業によって差があった。参画企業同士の情報交換等を通じて事業の質を相乗的に高め、効果的な取り組みの実施に至っていない企業へ水平展開していきたい。

【選定のポイント】

学校主体の企業見学会以外でほとんど接点のなかった地元企業と交流できる取組となった。受入れ企業は徐々に増加しており、今後の活動のさらなる広がりが期待できる。

団体名	飯田市産業経済部産業振興課	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-22-4511	事業費	2,160,000円
メールアドレス	sanrou@city.iida.lg.jp	支援金額	1,728,000円

川等活用振興事業

取組に至る背景・事業の目的

木祖村は「木曽川源流の里」として豊かな自然に恵まれ、溪流釣り大会など水資源を活かした事業も多く実施しており、木曽川下流域との交流も盛んである。

村内の観光における日帰りの割合が圧倒的に高く、宿泊施設の利用促進や長期滞在観光への取組が課題となっている。また、村づくりミーティング等で、「川に親しむ教育がなされていない」「河川の整備がされていない」などといった川に対する関心の薄さが一因と考えられる課題が挙げられた。上下流交流での水における啓発の進め方についても課題があると感じている。

これらを背景として、県の「釣リズム信州推進事業」と連携して川等活用振興検討会を発足し、木曽川源流の里にふさわしい本来の環境と生態系の維持を含め、河川環境整備活動や釣りの魅力等を発信し、地域住民や観光客の拠りどころとし易い景勝地として魅力を高め、更なる川等の活用振興策を検討している。

事業内容

- ヤマトイワナの人工産卵場の造成水木沢天然林（禁漁区）管理棟付近の清流に、ヤマトイワナの人工産卵場を造成。中学生を含む46名で実施。
- テンカラ釣り専用区域設定に向けた検討
専門家を交え、釣り客にとって満足度の高い専用区間の設定のための、テンカラ釣り（毛針を使う伝統的な釣り）の実証実験。
- 河川階段の設置
河川環境整備や釣り客のための河川階段を4か所設置。
- あやめ公園池の水ぜんぶ抜く事業
公園池記録事業、小学生湖底体験、料理コンテスト。



【ヤマトイワナ人工産卵場の造成】

事業効果

- ヤマトイワナ人工産卵場を造成することで、地域住民をはじめ中学生の意識の向上につながることができた。
- 放流を増やすことで釣果に効果があることが実証できた。
- 河川に降りやすい場所を増やすことにより、地元や釣り客の川への意識を変えることができた。
- 料理コンテストの開催を通して、木祖村と特産料理につながるアイデアを募ることができた。水抜きイベントを誘客につなげ、特に子ども達の川に対する興味や好奇心を育むことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ヤマトイワナ人工産卵場は、地元中学生を交え年1回実施し、産卵を増やしていくことでヤマトイワナを増やす。テンカラ釣りは優先区域を設け、一定期間に限定し、PRしながら継続することで誘客につなげる。本事業の「あやめ池料理コンテスト」を「木祖村特産料理」事業につなげることができた。今後も川等活用事業の観点と、特産料理の組み合わせにより誘客を促進していく。

【選定のポイント】

村内の水資源を活かした観光振興のため、釣り場の整備、ヤマトイワナの増殖および教育活動、イベント開催など幅広く事業を実施し、多くの参加者により村内外にPRができた。また、次年度以降につながる環境整備がされたので、取組の継続と観光客、宿泊客等の増加に期待したい。

団体名 木祖村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0264-36-2001	事業費	1,787,409円
http://www.vill.kiso.nagano.jp/index.html	支援金額	1,402,000円

山下町地区多世代交流実践事業

取組に至る背景・事業の目的

核家族化の進展により、世代間問わず孤立化しているという課題を解決するため、和が家日和（小規模多機能型居宅介護）の駐車場に誰もが気軽に集まることができる多世代交流拠点を作った。子ども、若者、お母さん、お父さん、高齢者、医療や介護が必要な人、そうでない人、すべての人が自分の役割を持ちながら互いに出来ることを行い支え合い、小さなありがとうを大切に、そのありがとうが笑顔や生きる力につながるそんな場所を作るため、ワークショップを開催。地域住民、子育て中の母親、事業所の職員を中心に参加し、制度的な理解（地域包括システムなど）から、自分たちが「何が出来る？何がしたい？」を具現化するために検討を重ね、コミュニティを運営・運用する「&HOUSE」を作り、活動場所でもあるコミュニティハウス「あんと」を建設した。

事業内容

- 地域作りワークショップの開催
 - 6月～8月 座談会 開催3回
 - 9月～11月 子供カフェワークショップ 開催3回
 - 12月～3月 今後についてのワークショップ 開催3回
- コミュニティハウス「あんとキッチン」完成
 - 木造建コミュニティハウスの完成
 - (トイレ、電気、水道、ガス設備)
- 毎週水曜日にコミュニティハウスの開放
- イベントの開催 3回
- あんと食卓（子供カフェ）の開催
- あんとリビングの貸し出し



【あんとキッチンでの調理の様子】

事業効果

- ワークショップでは目的別に分けてワークショップを開催し子どもカフェの開催に向け実施（参加者延べ92名）。
- 「あんとリビング」では（第1期）小学生が早く帰る水曜日を開放し延べ491名利用。
- 「あんとキッチン」11月に完成しキッチン、トイレがついたので利便性が向上し地域の拠点に。12月にお披露目会含めイベント3回実施延べ180名参加。
- 「あんとリビング」（平成29年度事業）の貸し出し各種団体31回延べ211名利用。
- 子どもカフェについてはカフェや食堂ではなく、いつも通って（開放日に）きてくれた子どもを中心とした食卓とした「あんと食卓」の開催に結びつき3月の春休みに開催21名の参加。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「あんとキッチン」の完成に伴い、地域の子どもを中心に大人からお年寄りが「できることをできる人が」をコンセプトに「あんと食卓」の開催に結びついた。今後もコミュニティハウス2棟の運用と、多世代交流拠点の活動目的を具現化していくために、お年寄りから子どもまで、施設利用者の社会参加や活動に結びつけるように話し合いを行い地域とともに一つずつ形にしていきたい。

【選定のポイント】

地域の子どもたちの居場所を高年齢介護施設内に置くとともに、ワークショップを通じて信州こどもカフェとして運用することにより、高齢者と子ども達との多世代交流の促進が期待される。

団体名	株式会社 和が家（岡谷市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-75-2606	事業費	5,770,000円
		支援金額	4,352,000円

井戸尻を元気に！ 地域を元気に！

取組に至る背景・事業の目的

昭和30年代から縄文時代遺跡の発掘が本格化したこの地域は、当初から地元民が在野の考古学者の指導や高校生の協力を得て、遺跡保存及び維持に関わってきた。

この誇らしい歴史を継承し、井戸尻地域を盛り上げていきたいという有志が集まり、「井戸尻応援団」を結成した。行政とは異なった住民の柔軟な視点で井戸尻の魅力を様々なイベントとして発信し、考古学に興味のない人にも気軽に参加できる機会を設け井戸尻のファンを増やすきっかけとしたい。

同時に活動を通じ、地元住民が井戸尻を地域の宝として再認識するきっかけになる事も期待している。また、レンコン掘りの様な過酷な作業をむしろ楽しいイベントとして、蓮の花の活性化を目指した。

事業内容

- レンコン掘り事業
7日間、延べ参加人数 101名
- 井戸尻をPRする事業
 - ・井戸尻のイベントを紹介するパンフレット作り
500部を作製して配布（町商工観光課も協力）
 - ・井戸尻のシンボルマーク作り（ワークショップ・投票）
 - ・展示用の写真を作成（町の図書館や縄文王国収穫祭でシンボルマークの投票と合わせて活動紹介）
- 復元家屋-萱刈り
8日間、延べ参加人数 75名
- 縄文住居の屋根の葺き替え作業を学ぶ講演会
参加人数約 50名



【萱刈り作業の様子】

事業効果

- レンコン掘りは定着してきており、富士見高校養蜂部や養護学校の生徒のほか保育園からの参加があった事は嬉しい広がりだった。延べ参加人数も昨年の1.8倍となった。
- 井戸尻関係のイベントを一つのパンフレットとしてPRすることができた。
- シンボルマークを作成する過程で多くの人々の参加を呼び掛けることができた。
- 写真展示で活動の内容を具体的に知ってもらう事ができた。
- 萱刈り作業は大変な作業であったが、参加者からは本当の豊かさを考えるような感想が多く、今後も愛着を持ってもらう事につなげていくことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

昨年同様、企画したイベントの数が多く、常に準備に追われていた一年だったが、イベント参加者からの評価もそれぞれかなり高かった。しかし、一部のイベントでは、思ったように参加者を集めることができなかつた。チラシ配布が主な広報手段となったが、情報を欲しい人にどのように届けるかが引き続きの課題である。

今後はシンボルマークを広めるために、ワッペンやファイル、マグネットシートなどを制作し普及に努める。

蓮を咲かせるために、来年度はスイレンの駆除を集中的に行う予定。

復元家屋の屋根の葺き替え事業に関しては、来年度は講演会やワークショップ形式を交えながら、今年刈った萱で実際に葺く作業をする。

前年度より開始した蓮の葉茶の製品化や土器作り&野焼き事業は参加費を徴収するなどし、会の運営費に当て、持続的な活動を目指している。

【選定のポイント】

地域住民が縄文文化を理解する機会を創出し、レンコン掘りや土器づくり等に携わることにより、井戸尻地域に対する愛着を醸成し、住民自らが縄文文化のファンとして情報発信や普及活動を行うことが期待される。

団体名	井戸尻応援団（富士見町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-5553-2376	事業費	802,842円
メール	chiyoko@chiyokoangel.com	支援金額	642,000円
HP	http://idojiri.fujimi-kogen.com		

南信州移住促進事業

取組に至る背景・事業の目的

各市町村が独自で取り組む移住促進施策に加え、広域的な連携のもと移住促進施策に取り組むことにより、U I ターン希望者への多様な選択肢を提供する機会を創出し、圏域への移住定住の促進を図る。

事業内容

- 1 南信州移住相談会及びセミナーの開催
首都圏・中京圏における南信州地域の認知度の向上と当地域への移住促進を図るため、南信州管内 14 市町村及び南信州地域振興局と連携し、オール南信州体制での移住相談会を開催した。
- 2 移住体験ツアーの催行
移住希望者に実際に南信州に来てもらうことで、地域の良さを肌で感じてもらい、またこの土地で暮らすイメージを掴んでもらうために、「暮らし」をテーマにしたツアーを試行的に実施した。
- 3 情報発信事業
移住に焦点を当てた南信州地域の魅力や 14 市町村の状況をアピールする広報ツールを作成し、相談会等で活用した。
 - (1) PR 動画の制作
南信州へ移住した I ターン者の体験談及び「南信州移住あるある（南信州での暮らしを伝えるほっこり映像）」を映像化し、動画共有サービス（YouTube 等）を活用した情報発信を行った。
 - (2) 南信州永住計画「南信州に暮らそう」パンフレット制作
14 市町村に在住する U I ターン者に、南信州の「暮らし」、「仕事」、「子育て」をテーマにインタビュー記事としてまとめ、移住促進ツールとして整備した。
 - (3) U ターン特集
U ターンへのきっかけづくりとして、帰省時期の盆と正月に U ターン者による対談記事を地元紙に掲載した。



【移住相談会の様子】

事業効果

- ・南信州移住セミナーは東京 5 回、名古屋 1 回の開催で、合計 136 組 183 名の参加者があった。
- ・平成 28 年から 30 年度までの取組の中で、相談会やセミナーを経由して移住に繋がったケースは 6 市町村で 24 人となった。



【移住体験ツアーで先輩移住者を訪ねる】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・移住促進事業は、「暮らし」「仕事」「住まい」の三つの要素をセットで考える施策であり、直結する民間の様々な団体や組織との連携が不可欠である。そこで、飯伊不動産組合や南信州担い手就農プロデュース（J A みなみ信州と関係市町村による新規就農者の支援を目的とする組織）との連携が重要と考え、情報共有や相談会への相互参画等の関係を構築した。それぞれのイベント等において、お互いのイベントを PR しあうことで広く周知ができ、結果相談会や移住体験ツアー等の集客にも好影響を及ぼし、地域一丸となって取り組むメリットが生まれている。
- ・今後は、試行的に実施した移住体験ツアーを発展させ、南信州の本物体験で取り組む株式会社南信州観光公社と連携した移住につながるツアー企画を検討していきたい。

【選定のポイント】
 移住セミナー参加者のうち実際に移住者が出ているなど効果が上がっている。14 市町村が圏域全体で連携して事業を実施することで、市町村間の連携やノウハウ共有が図られており、移住希望者に対し多様な選択肢を提供することが期待できる。

団体名 南信州広域連合 連絡先 0 2 6 5 - 5 3 - 7 1 0 0 メール shinkou@minami.nagano.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 5, 6 3 2, 4 9 7 円 支援金額 4, 4 3 5, 0 0 0 円
----------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

元気を生み出す地域づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

木曾町開田高原は御嶽山の眺望と美しい農村風情を有し、平成 18 年にはいち早く NPO 法人「日本で最も美しい村連合」から「美しい村」に選定された。その景観は大きな観光資源である。また、高原野菜やとうもろこし、そばが特産となっている。

しかし、近年では地域住民の高齢化が進み、住民自らによる草刈りなどの景観整備に取り組めない状況となっている。また、白菜、大根、とうもろこしなどブランド野菜の販売ルートも少なく、PR が不十分である。そうした状況の中で、御嶽山噴火による風評が重なり、観光客も減少している。

開田高原最大の魅力である素晴らしい眺望、景観を取り戻すため、住民や行政等が連携協働して景観意識の高揚、景観整備への活動醸成が必要な時期となっている。

また、開田高原のもう一つの魅力であるブランド野菜の積極的な PR が必要となっている。

事業内容

- ブランド野菜や特産品の販売促進、イベントへの誘客を図るため、チラシ、ハガキを活用して県内外へ PR を行った。
- とりわけ身近な名古屋、大阪方面については、県事務所、観光協会、商工会、そば振興組合等と連携し、特に秋から年末にかけて DM、マスコミへの宣伝等によりブランド野菜や特産品の売り上げと観光客の増加を図るよう努めた。
- 地域自治組織などと協力して高原の美しい眺望、景観ポイントの調査（景観ウォッチング）を実施し、専門家の意見を踏まえ報告書にまとめ、町への提言を行った。併せて、専門家による講演会を開催し、景観に対する住民意識の高揚を図った。



【県名古屋事務所前で特産品を PR】

事業効果

- 「かいだ生そば」「すんき」などの特産品や観光について、さまざまな情報媒体を通じて県内外に広く PR することでイベントの来場者も増え、特産品のふるさと小包の販売増にもつながった。
 - ・開田高原そば祭り来場者 前年比 20%増
 - ・ふるさと小包販売数 前年比 22%増
- 国道 361 号沿いの美化活動を行うことで、景観に対する住民意識の高揚が図られ、「美しい村」の景観づくりにつなげることが期待できる。また、景観ウォッチングを実施し、足元の景観の状況を見つめ直し、専門家の意見も交えて報告会や講演会を開催することで、町や県などに対してより具体的な提言を行うことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

特産品販売や観光 PR などは息の長い継続的な取組が必要である。これからも工夫を重ねながら取り組んでいきたい。その中で、出かけて行って PR するだけでなく、こちらへ出向いていただくような取組なども今後考えていきたい。

また、美しい景観づくりについては、地域の魅力を高め、移住者を呼び込むという観点からも、引き続き景観ウォッチングや専門家を招いての講演会、先進地視察などを通じて町や県などにも呼びかけ、さらに美しい景観づくりに磨きをかけていきたい。

【選定のポイント】
地元関係団体と連携し、効果的な PR をしたことで売上げ、観光客入込の増加につながった。景観についても、課題を明確にし、行政に対して具体的な提言がされた。今後、行政との連携を図るとともに会員の増加を図り、活動が活性化することを期待する。

団体名	開田高原倶楽部（木曾町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 大目 富美雄 090-2526-7156	事業費	432,070円
メール	info@ome-fumio.com	支援金額	324,000円

「花ごはん」で楽しむ白馬 Alps 花三昧・2018

取組に至る背景・事業の目的

白馬村のグリーンシーズン観光は天候に左右されることが多く、いつでも白馬を楽しめる工夫が必要である。加えて、白馬に再度訪れてもらえる動機付けとなる取組が必要である。

当会は、白馬の次世代を担う女性の視点で、15年前から地域で開催する夏のイベント「白馬 Alps 花三昧」と連携して「花ごはん※」で来訪者をもてなすことを提案することで、夏の観光客誘致に取り組み、来訪者増加を目指すとともに、元気な地域づくりに貢献することを目的としている。また併せて、取組を通じた女性の能動的な社会参画の意識向上を図ることを目指している。

(※「花ごはん」とは、エディブルフラワー（食用花）を使った料理や花をモチーフにした器で食事を楽しむ取組)

事業内容

- ① 「花ごはん」を提供する事業者の拡大 参加 25 事業者
- ② 新たな食の提供に関わる知識や技能の拡大
 - ・料理講習会の実施 延べ参加者数 168 名
 - ・インスタグラム講習会の実施 参加 43 名
- ③ 首都圏向け「花ごはん」と白馬 Alps 花三昧イベントの周知
 - ・首都圏銀座 NAGANO イベントの実施 参加 40 名
- ④ 花バスツアー（観光局主催）の実施 参加 10 名
- ⑤ 他団体主催イベントでの花ごはん提供協力 4 回
- ⑥ 参加施設へのアンケート



【賑わった花ごはん講習会】

事業効果

- ・白馬 Alps 花三昧の来場者数 昨年度比 7% 増 (H29:162 千人⇒H30:173 千人。白馬村観光局調べ)
- ・「花ごはん」が認知され、白馬村内外のイベントの協力要請を受け、BMWモトラッドデイズや信州花フェスタ 2019 等に出展し好評を博した

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

エディブルフラワーの仕入れが難しい課題があるため、花ごはんの講習会を継続して花ごはん提供店舗をさらに増やすことに加え、花ごはんの材料となるエディブルフラワーの栽培講習会開催を通じて、花ごはんへの理解を深めるとともに地域内の生産体制を強化したい。

白馬 Alps 花三昧の参加事業者や村観光局と連携し、花を楽しむバスツアーをさらに充実させて村内周遊につなげ、夏季観光シーズンを盛り上げたい。

また、情報発信については SNS 等の活用をさらに強化するとともに、村外で白馬の PR につながるお土産品となるような花ごはんを開発したい。

加えて、花ごはんの取組を通じて得られた経験を基に、女性が生き生きと活躍できる場を増やしたい。

【選定のポイント】

グリーンシーズンにおける誘客の新たな取組として、エディブルフラワーを使った料理や花の形の食器で食事を楽しむ「花ごはん」を提案し、花ごはんを地域に広げるための料理講習会や、情報発信のための発表会等を実施。花ごはんが 25 店で提供開始となるなど、取組は地域を巻き込み拡大しており、白馬村における楽しみの柱の一つとなることが期待できる。

団体名	白馬 Women's Club (白馬村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 中村ゆかり	事業費	1,709,593円
		支援金額	1,350,000円

白馬婚活プロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

全国的に進む、少子高齢化の影響により白馬村の人口も 9,500 人をピークに年々減少傾向にあり、前回国勢調査では 8,929 人となった。本村でも若年人口の流出や後継者不足が課題となっている。

白馬村は定住移住に魅力的なコンテンツが多く移住者も他の地域に比べて多いが、若年人口の流出や後継者不足の対応が遅れると、地域の産業の衰退、地域の活力の減少、地域の魅力の低下といった負のスパイラルの要因になりかねないと考えた。

その結果、地元の商工業者の集まりである商工会、とりわけ若手経営者で組織している白馬商工会青年部において、若年人口の流出等の対策として婚活を企画・実施することとした。

事業内容

☆白馬コンサイクリング

グリーンシーズンの白馬を最大限に楽しめるアクティビティとして自転車を使った婚活を実施。自転車婚活という珍しさもあり、多くの参加者が集まった。

☆ゲレコン in 白馬

ウィンターシーズンの白馬の代名詞、パウダースノーのゲレンデを使った婚活を実施。スキー場を持っている市町村にしかできない特徴を生かした婚活であり、多くの方にご参加頂いた。



【第2回コンサイクリング集合写真】

事業効果

2回の婚活イベントを通じ、12組のカップルが成立した。県外からの参加者も多く、定住移住に繋がる宣伝ができたものと思われる。参加者も毎回多く集まり、地域の活性化につながったものと感じている。イベント時に行ったアンケートでは、多くの方に高く評価していただき、次回も同企画のイベントを実施した場合は、95%の方が参加したいと回答いただいた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

準備からイベントの実施まで商工会青年部員で行ったが、本業(家業)の合間での活動であり、部員に負担が掛かってしまった点は、苦労した点である。自転車を使った婚活では、純粋に自転車を楽しんでしまい婚活色が薄れてしまった部分も多く、今後は改善の余地があると感じている。

ゲレンデを活用した婚活に関しては、実施時期を雪のある2月に設定をしたが、当初の目的である地元後継者の方にとっては繁忙期であり、事業に参加いただけない状況が課題として残った。

今後は、スタッフに若手の従業員(家業に影響されず、参加しやすい方)、役場行政の若手なども巻き込みながら事業の実施をしたい。

自転車を使った婚活においては、初心者比率を増やし、婚活色を高める。ゲレコンに関しては、シーズンインの12月の繁忙期に入る前に実施することで地元後継者の参加を促したい。

【選定のポイント】

地域の特徴を生かしたアクティビティ(サイクリングとスノーボード)を生かした、若年層の移住定住促進や交流・出会いの場を提供する婚活イベントを実施。白馬村ならではの体験を通じた、移住・定住や人口増につながるイベントとして発展することが期待される。

団体名	白馬商工会青年部(白馬村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-72-5101	事業費	870,588円
メール	info@hakuba-sci.jp	支援金額	563,000円